

書評 201907



旧友再会

重松 清 著

講談社

年を重ねると増えていく「再会」の機会。再会は、一度別れたからこそそのもの。どう別れたか、再会の仕方にも変わってくる。会いたい人、会いたくない人、忘れていた人…。全5編を収録。

2019/6./ 316p

978-4-06-516167-8

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2019/07/07



新訳夢判断(新潮モダン・クラシックス)

フロイト、大平 健 著

新潮社

ひた隠しにしていた性的欲求が丸出しの夢、試験に落ちる夢、親を殺す夢…。本当の自分が潜む場所「夢」を分析し、悩みを解き明かすフロイトの歴史的ベストセラー。長年患者の夢や無意識と向き合い続けた精神科医による翻訳。

2019/4./ 457p

978-4-10-591007-5

本体 ¥2,500+税



産経新聞 2019/07/07



ある作家の夕刻〜フィッツジェラルド後期作品集〜

スコット・フィッツジェラルド、村上 春樹 著

中央公論新社

華やかな喧噪の日々から一転、30代半ばにして迎えた不遇の時代。作家としての窮状さえも、フィッツジェラルドは見事に小説に結実させていった。1930年代の多彩な短篇小説とエッセイを村上春樹がセレクト。

2019/6./ 332p

978-4-12-005199-9

本体 ¥1,700+税



産経新聞 2019/07/07



世にも危険な医療の世界史

リディア・ケイン、ネイト・ピーダーセン、福井 久美子 著

文藝春秋

梅毒患者は水銀風呂に入れ！泣き止まない子どもにはアヘンを！瀉血、ロボトミー、食人、ストリキニーネなど、科学を知らない人類が試みた、ぞっとする医療や、詐欺まがいのインチキ療法の数々を紹介する。

2019/4./ 427p

978-4-16-391017-8

本体 ¥2,200+税



産経新聞 2019/07/07



119

長岡 弘樹 著

文藝春秋

消防士は川原で石を拾っていた女性と交際を始めたが…。「教場」「傍聞き」などの短編ミステリの名手が、消防署を舞台に描く9つの連作短編。『オール読物』掲載を単行本化。

2019/6./ 248p

978-4-16-391034-5

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2019/07/07

- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBNも併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会には弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は2019年7月時点での税抜価格です。



平成プロ野球死亡遊戯

中溝 康隆 著
筑摩書房

平成時代を彩ったスーパースター選手から伝説の試合、忘れ去られた外国人助っ人や珍エピソードまで、<死亡遊戯>流に平成プロ野球を総括する 56 本のコラム集。巻末に「平成球界年表遊戯 1989-2019」を収録する。

2019.5./ 339p
978-4-480-87907-3
本体 ¥1,500+税



産経新聞 2019/07/07



「盛り」の誕生〜女の子とテクノロジーが生んだ日本の美意識〜

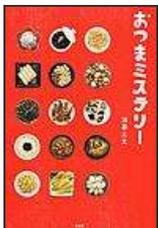
久保 友香 著
太田出版

顔を加工する「盛り」は、どのようにしてはじまったのか。女の子が現実とは違うビジュアルを作り、新しいメディアで公開する技術をシンデレラテクノロジーと名づけた研究者が、「盛り」の全貌を解き明かす。

2019.4./ 355p
978-4-7783-1663-1
本体 ¥2,400+税



産経新聞 2019/07/07



おつまみミステリー

浅暮 三文 著
柏書房

カシューナッツの真実、ザーサイと三国志の関係、海苔の佃煮の東西問題…。万人が一度は目にしつつ、内実にあまり詳しくない「おつまみ」。その素顔に推理作家が迫る。

2019.7./ 167p
978-4-7601-5147-9
本体 ¥1,800+税



産経新聞 2019/07/07、朝日新聞 2019/07/20



手仕事の帝国日本〜民芸・手芸・農民美術の時代〜(シリーズ日本の中の世界史)

池田 忍 著
岩波書店

西洋近代との出会いによる日本美術の制度化の過程で見失われかけた手仕事。その魅力と価値に気づき、大きく変容する帝国日本において新しい「美」の創造に挑んだ美術家たちの実践と葛藤をみつめ、歴史的意義を問い直す。

2019.5./ 10p,296p
978-4-00-028389-2
本体 ¥2,500+税



産経新聞 2019/07/13



50歳からのゼロ・リセット〜「手放す」ことで、初めて手に入るもの〜(青春新書 INTELLIGENCE PI-569)

本田 直之 著
青春出版社

人生は壮大な実験。大切なのは、変化を受け入れること。そして、試してみること。50歳はあえて変化を選択することができる最後のチャンス。変化の時代に対応し、人生を充実させるための生き方・考え方を伝授する。

2019.5./ 187p
978-4-413-04569-8
本体 ¥900+税



産経新聞 2019/07/13



オーロラの日本史〜古典籍・古文書にみる記録〜(ブックレット<書物をひらく> 18)

岩橋 清美、片岡 龍峰 著
平凡社

藤原定家が「明月記」に記した日没後の「赤気」、本居宣長が夜の北の空に見た不思議な赤い光。日本で見られるオーロラについて、史書、日記、随筆などの記録をたどり、太陽・地球の千年の歴史を探る。

2019.3./ 83p
978-4-582-36458-3
本体 ¥1,000+税



産経新聞 2019/07/13



川っぺリムコリッタ

荻上 直子 著
講談社

刑務所を出て、ひっそり生きていくつもりで住み始めた古びた木造アパート。出会ったのは訳ありな大家と、世の中から落第した隣人たちだった。“ひとり”が当たり前になった時代に、静かに寄り添って生き抜く人々の物語。

2019.6./ 189p
978-4-06-516028-2
本体 ¥1,500+税



産経新聞 2019/07/14



いくつになっても〜トシヨリ生活の愉しみ〜

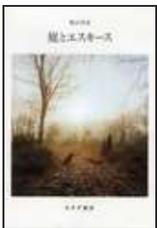
中野 翠 著
文藝春秋

いよいよ人生の放課後だなあ。あれもしたい、これもしたい。70代からのファッション、趣味、教養、あこがれのジジ・ババ…。人気コラムニストが、孤独を感じるヒマがない楽しい独居生活を綴る。

2019.6./ 174p
978-4-16-390981-3
本体 ¥1,500+税



産経新聞 2019/07/14



庭とエスキース

奥山 淳志 著
みすず書房

北海道の丸太小屋で自給自足の生活を営み、糧を生みだす庭とともに暮らす「弁造さん」。その姿を14年に渡り記録した写真家による写文集。弁造さんの“生きること”を思い紡いだ24篇の記憶の物語と、40点の写真を収録。

2019.4./ 284p 図版
40p
978-4-622-08795-3
本体 ¥3,200+税



産経新聞 2019/07/14



ドキュメント豪雨災害〜西日本豪雨の被災地を訪ねて〜

谷山 宏典 著
山と溪谷社

なぜ人は逃げ遅れるのか。気鋭のノンフィクションライターによる渾身のドキュメントで「西日本豪雨」の被災現場をリアルに再現すると共に、災害心理学の専門家等へのインタビューを収録。大災害時代をいかに生き抜くかに迫る。

2019.6./ 231p
978-4-635-14027-0
本体 ¥1,600+税



産経新聞 2019/07/14



人前で変に緊張しなくなるすごい方法

伊藤 丈恭 著
アスコム

大勢の前でプレゼン・スピーチ、朝礼・会議での発言…。あなたを悩ます「緊張」は必ずとることができる！演技トレーナーの著者が演劇理論に基づいて一般向けに考案した、たった5分でできる緊張撃退法を紹介する。

2019.6./ 172p
978-4-7762-1047-4
本体 ¥1,400+税



産経新聞 2019/07/14



アインシュタインの旅行日記〜日本・パレスチナ・スペイン〜

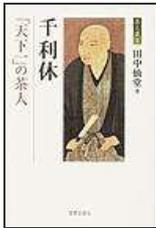
アルバート・アインシュタイン、ゼエブ・ローゼンクランツ 編
アルバート・アインシュタイン、畔上 司 著
草思社

アインシュタインが、1922年10月から1923年3月までの半年間、日本、パレスチナ、スペインを旅したときの日記を全編網羅。ほか、日記オリジナルページの写真、日記に記されている個人や組織等の説明なども収録。

2019.6./ 358p
978-4-7942-2400-2
本体 ¥2,200+税



産経新聞 2019/07/14



千利休～「天下一」の茶人～(茶人叢書)

田中 仙堂 著
宮帯出版社

同時代史料を厳選し、限られた道具を創意工夫する千利休の姿勢や、茶会での関連茶人らの心理などを、茶道家元ゆえの洞察力で読み解き、理想化される以前の等身大の千利休の実像に迫る。年譜、茶会一覧付き。

2019/6./ 496p,11p
978-4-8016-0118-5
本体 ¥3,500+税



産経新聞 2019/07/14



会計と犯罪～郵便不正から日産ゴーン事件まで～

細野 祐二 著
岩波書店

粉飾決算事件における共謀容疑で、有罪確定した著者。同じ頃、郵便不正事件で無罪となった厚労省の村木元局長。2人の判決の差は何か。未踏の犯罪会計学を切り開いた著者が、日産ゴーン事件をも鋭く抉り、特捜検察の闇を問う。

2019/5./ 18p,279p,5p
978-4-00-061341-5
本体 ¥1,800+税



産経新聞 2019/07/14、日本経済新聞 2019/07/20



まちがう人～まちがい大将・和田さんの迷言&迷事件集「Wadadas」～

和田さん 研究家・K 著
ダイヤモンド社

郵便番号の数字と同じ値段の切手を貼る、キャッシュカードの暗証番号を他人に聞く...だけどもなぜかみんなに愛される。1970年代、広告業界に実在した、都市伝説的な人物「和田さん」の「さまざまなまちがい」を紹介する。

2019/7./ 183p
978-4-478-06913-4
本体 ¥1,100+税



産経新聞 2019/07/20



先人の知恵を今に生かす四字熟語図鑑～知れば知るほどおもしろい!～

佐藤 友樹、カラビナ、イワイ ヨリヨシ 著
ナツメ社

よく使われる四字熟語を中心に、400語以上を取り上げ、楽しいイラストでその意味、由来、使い方を解説する。四字熟語に由来する歴史上の人物、追加情報や知っておくと理解が深まる内容のひとくちメモも掲載。

2019/6./ 319p
978-4-8163-6675-8
本体 ¥1,800+税



産経新聞 2019/07/20



ねこの小児科医ローベルト

木地 雅映子、五十嵐 大介 著
偕成社

夜中に、具合が悪くなった子どものところに来てくれる、ねこのお医者さん、ローベルト先生。ある夜、ユキの弟のユウの体調が急に悪くなってしまいました。ユキの家にやってきたローベルト先生は、やさしく診察してくれて...

2019/2./ 71p
978-4-03-313770-4
本体 ¥1,500+税



産経新聞 2019/07/21



カム・ギャザー・ラウンド・ピープル

高山 羽根子 著
集英社

東京の記録を撮りため、SNS にアップしているイズミと出会った「私」。映像の中、デモの先頭に立っているのはドレス姿の美しい男性、成長した高校時代の友だち、ニシダだった...。『すばる』掲載を加筆・修正し単行本化。

2019/7./ 108p
978-4-08-771677-1
本体 ¥1,300+税



産経新聞 2019/07/21



コイコワレ

乾 ルカ 著
中央公論新社

太平洋戦争末期、東京から東北の田舎へ集団疎開してきた小学生たち。青い目を持つ美しい少女・浜野清子と、捨て子で疎開先の寺の養女・那須野リツは理由もなくお互いを嫌悪するが…。『小説 BOC』連載に加筆・修正。

産経新聞 2019/07/21

2019:6./ 307p
978-4-12-005198-2
本体 ¥1,700+税



トランスファー

中江 有里 著
中央公論新社

派遣社員として働く 30 歳の玉青は、空虚な毎日を送っていた。ある日、彼女の身に「入れ替わり」が起こり…。<希望>をテーマに綴った長篇小説。読売新聞会員制ウェブサイトで連載を加筆し書籍化。

産経新聞 2019/07/21

2019:6./ 258p
978-4-12-005206-4
本体 ¥1,500+税



シェイクスピアの演技術

三輪 えり花 著
玉川大学出版部

シェイクスピアを上演するために必要な演技と演出に焦点を当てた演技解説書。英国王立演劇アカデミーやロイヤル・シェイクスピア・カンパニーの俳優訓練法をもとに、戯曲場面を抜粋したエクササイズを収録する。

産経新聞 2019/07/21

2019:5./ 375p
978-4-472-40538-9
本体 ¥3,800+税



短編画廊〜絵から生まれた 17 の物語〜

ローレンス・ブロック 編
田口 俊樹 著
ハーバーコリンズ・ジャパン

すべての絵には物語がある。S・キング他文豪たちが米国の名画家エドワード・ホッパーの絵から物語を紡ぐ。MWA 賞受賞 L・ブロック作「オートマットの秋」など 17 編を収録。アンソニー賞アンソロジー部門最終候補作。

産経新聞 2019/07/21

2019:6./ 478p
978-4-596-55209-9
本体 ¥2,200+税



めぐりながれるもの人類学

石井 美保 著
青土社

フィールドで文化人類学者が見たものとは? タンザニア、インド、60 年安保の水俣、京都大学の「立て看」撤去問題…。異なっていながら同じものに満ち、分かつたれていながら?がっている私達の生のあり様を鮮やかに描き出す。

産経新聞 2019/07/21

2019:6./ 210p
978-4-7917-7174-5
本体 ¥1,900+税



世界の一流が必ず身につけている西洋美術の見方〜カラー版〜

宮下 規久朗 著
宝島社

神秘的な雰囲気を作るスマートや空気遠近法で描かれた「モナ・リザ」、「光の魔術師」と呼ばれたレンブラントの画法…。不朽の名画約 100 点の歴史と技術を、ビジュアルに解説する。

産経新聞 2019/07/21

2019:5./ 191p
978-4-8002-9488-3
本体 ¥1,650+税





DIVE TO BANGLADESH

梶井 照陰 著

リトル・モア

衣料品輸出国としての急激な発展。そのかたわらで繰り広げられる、スラム街の日常、労働者やヒジラ(トランスジェンダー)の生活…。僧侶で写真家の著者が、 Bangladesh のグローバリズムの現実を捉えた写真集。

2019/5/ 1 冊(ページ

付なし)

978-4-89815-505-9

本体 ¥2,900+税



産経新聞 2019/07/21



カラマーゾフの兄弟～ミステリー・カット版～

ドストエフスキー、頭木 弘樹 著

春秋社

ドストエフスキーはミステリーとしても面白い! 3 千ページ以上ある世紀の大長編傑作「カラマーゾフの兄弟」からミステリー部分だけを取り出し、222 ページに読みやすくまとめたミステリー・カット版。

2019/3/ 268p

978-4-393-45503-6

本体 ¥1,700+税



産経新聞 2019/07/27



あとは切手を、一枚貼るだけ

小川 洋子、堀江 敏幸 著

中央公論新社

かつて愛し合い、今は離ればなれに生きる「私」と「ぼく」。2 人を隔てた、取りかえしのつかない出来事。14 通の手紙に編み込まれた哀しい秘密とは…。『アンデル小さな文芸誌』連載を単行本化。

2019/6/ 292p

978-4-12-005205-7

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2019/07/28



サンリオピューロランドの人づくり～来場者 4 倍の V 字回復!～

小巻 亜矢 著

ダイヤモンド社

サンリオピューロランドはなぜ変わったのか? 専業主婦から復職し、赤字体質・負のスパイラルをわずか 2 年で再建した著者が、スタッフたちの心と行動を変えた全ノウハウを公開する。

2019/7/ 255p

978-4-478-10792-8

本体 ¥1,400+税



産経新聞 2019/07/28



世界を変えた 60 人の偉人たち～新しい時代を拓いたテクノロジー～

東京電機大学 編

東京電機大学出版局

ピタゴラス、ジェームズ・ワット、ライト兄弟、丹羽保次郎、ユーレイ・ガガーリン…。社会を大きく変えてきたテクノロジーの歩みとその影響、開発者の思いやメッセージなどをイラスト入りで紹介する。

2019/7/ 7p,141p

978-4-501-63190-1

本体 ¥2,000+税



産経新聞 2019/07/28



帝国ホテル建築物語

植松 三十里 著

PHP研究所

世界的建築家ライトの飽くなきこだわり、経営陣の追及、関東大震災…。1923 年(大正 12 年)に完成した帝国ホテル旧本館「ライト館」の建築にかけた男たちの熱い闘いを描いた長編小説。『歴史街道』連載に加筆・修正。

2019/4/ 333p

978-4-569-84276-9

本体 ¥1,800+税



産経新聞 2019/07/28



山小屋ガールの癒されない日々

吉玉 サキ 著
平凡社

100人前のごはん作り、やりたい放題の「小屋閉め」、山小屋の人がお客さんを叱る理由…。山小屋で10年働いた著者が、山の上での想定外の日常を綴る。ウェブメディア『cakes』掲載を加筆し書籍化。

2019/6./ 226p
978-4-582-83807-7
本体 ¥1,400+税



産経新聞 2019/07/28



ヒロシマ消えたかぞく(ポプラ社の絵本 67)

指田 和 著
ポプラ社

あの日ヒロシマに落とされた原子爆弾が、にぎやかに暮らす鈴木六郎さん一家を消し去った。愛情あふれる家族写真の数々から、何気ない日常こそが大事であると気づかされる。家族で平和を考えるために最適の写真絵本。

2019/7./ 41p
978-4-591-16313-9
本体 ¥1,650+税



産経新聞 2019/07/28



下戸の夜

本の雑誌編集部下戸班 編
本の雑誌社

酒飲みを「上戸」と言うのに対して、なんだか下に見られているような、お酒を飲まない「下戸」の民。飲み会への逡巡や、酔いの憧れも交え、お酒のない夜を過ごす下戸の生態をゆる々伝える。下戸ブックガイド付き。

2019/6./ 190p
978-4-86011-429-9
本体 ¥1,600+税



産経新聞 2019/07/28



権力と音楽～アメリカ占領軍政府とドイツ音楽の「復興」～

芝崎 祐典 著
吉田書店

アメリカという存在が戦後ドイツの音楽環境の正常化にどのような影響を与えたか、そして戦後ドイツ音楽にどのような意味で影響を及ぼしたかを考察。権力と音楽の見えにくい関係の一端を可視化する。

2019/7./ 316p
978-4-905497-77-6
本体 ¥2,800+税



産経新聞 2019/07/28



北村透谷選集(岩波文庫)

北村透谷、勝本清一郎 著
岩波書店

朝日新聞 2019/07/06

1970/9./ 413p
978-4-00-310161-2
本体 ¥1,020+税



ゆめはるか吉屋信子～秋灯机の上の幾山河～<下>

田辺 聖子 著
朝日新聞社

吉屋信子の小説世界に吹き渡る明るい無常感。そしてまた、女性への深い愛と、風趣に富む男性像…。「少女時代からの大ファン」と告白する著者の、実感的な吉屋信子伝。『月刊 Asahi』『アサヒグラフ』連載。

1999/9./ 579p
978-4-02-257393-3
本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2019/07/06



未来を生きるスキル(角川新書 K-262)

鈴木 謙介 著

KADOKAWA

社会の変化を見据え、どのように未来に向かえばいいのか? 「AI で仕事がなくなる」「子どもの教育が変わる」などのいま起きている変化をテーマに、次の社会を生きるためのスキルである「協働」の価値について述べる。

2019:5./ 233p

978-4-04-082270-9

本体 ¥840+税



朝日新聞 2019/07/06



言い寄る(講談社文庫)

田辺 聖子 著

講談社

乃里子、31 歳。フリーのデザイナー、画家。金持ちの色男・剛、趣味人の渋い中年男・水野など、いい男たちに言い寄られ、恋も仕事も楽しんでいる。しかし、痛いくらい愛してる五郎にだけは、どうしても言い寄れない...

2010:9./ 406p

978-4-06-276759-0

本体 ¥660+税



朝日新聞 2019/07/06



完璧という領域

熊川 哲也 著

講談社

芸術としてのバレエだけでなく、ビジネスとして成功に導くために大企業と渡り合い、劇場を監督し、ダンサーとスタッフを育てる。世界に輸出するために完全オリジナル作品を創造し続ける、バレエダンサー熊川哲也の自伝。

2019:5./ 267p

978-4-06-512545-8

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/07/06



日本語と西欧語～主語の由来を探る～(講談社学術文庫 2565)

金谷 武洋 著

講談社

元々「主語」がなかった日本語。英語に「主語」が現れる時期も、古代に遡れるものではない。どのような事情、何の必要があって「主語」は生まれ、広がったのか。言語史を遡行して解き明かす比較文法・文化論。

2019:5./ 273p

978-4-06-516069-5

本体 ¥1,110+税



朝日新聞 2019/07/06



歴史戦と思想戦～歴史問題の読み解き方～(集英社新書 0978)

山崎 雅弘 著

集英社

「従軍慰安婦はいなかった」「南京虐殺はなかった」それってホントなの? 歴史問題にまつわる欺瞞とトリックをどう見抜くか。豊富な具体例を挙げて読み解く。

2019:5./ 301p

978-4-08-721078-1

本体 ¥920+税



朝日新聞 2019/07/06



文車日記～私の古典散歩～ 改版(新潮文庫)

田辺 聖子 著

新潮社

朝日新聞 2019/07/06

2003:3./ 366p

978-4-10-117504-1

本体 ¥590+税





1979年の奇跡～ガンダム、YMO、村上春樹～(文春新書 1214)

南 信長 著
文藝春秋

ガンダム、ウォークマン、YMO、村上春樹…。日本のポップカルチャーのカンブリア爆発ともいえる1979年を振り返り、その社会背景を探りつつ、いかに現代につながっているのかを検証・論考する。

2019:4./ 247p
978-4-16-661214-7
本体 ¥850+税



朝日新聞 2019/07/06



夏みかん酢っぱしいまさら純潔など(河出文庫 す15-1)

河出書房新社

いにしへのてぶりの屠蘇をくみにけり 激動の戦後を生き、消息を絶った伝説の女性俳人・鈴木しづ子。彼女がこの世に遺した句集「春雷」と「指環」を一冊にまとめる。ほか川村蘭太のルポ「鈴木しづ子追跡」なども収録。

2019:6./ 270p
978-4-309-41690-8
本体 ¥840+税



朝日新聞 2019/07/06



世界の危険思想～悪いやつらの頭の中～(光文社新書 1009)

丸山 ゴンザレス 著
光文社

金持ちからは奪ってもよい!? 世界中の危険地帯取材する中で日本人の常識とは相容れない考え方に出会ってきた著者が、「危険思想」を自らの体を張って体系化。悪いやつらの頭の中に迫る。ウェブサイト連載をもとに書籍化。

2019:5./ 182p
978-4-334-04415-2
本体 ¥740+税



朝日新聞 2019/07/06



ダイヤモンドの語られざる歴史～輝きときらめきの魅惑～

ラシェル・ベルグスタイン、下 隆全 著
国書刊行会

人々はなぜ、これほどまでにダイヤモンドに魅せられるのか? また、どのような人たちがそれに一生をかけてきたか? 「ダイヤモンドと人々」との語られざる歴史を、ユニークなエピソードを交えて紹介する。

2019:5./ 405p 図版
16p
978-4-336-06335-9
本体 ¥3,800+税



朝日新聞 2019/07/06



「モノの単位」大事典～知ってるだけで一目置かれる!～

ホームライフ取材班 編
青春出版社

令和2年は昭和に換算すると何年? 車で10分、歩くと何分? 気温15度の日はなにを着て出かける? 知っておくと便利な「数値」「目安」「料理の単位」などについて、図表を駆使し、ひと目で実感できるように紹介する。

2019:5./ 378p
978-4-413-11291-8
本体 ¥1,000+税



朝日新聞 2019/07/06



歴史を変えた50人の女性アスリートたち

レイチェル・イグノトフスキー、野中 モモ 著
創元社

女性をしめ出していた近代スポーツ界に飛びこみ、圧倒的な能力と粘り強さで記録と歴史をぬりかえてきた女性アスリートたち。その驚くべき成績やエネルギーに満ちた人生を、チャーミングなイラストとともに紹介する。

2019:4./ 127p
978-4-422-75303-4
本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/07/06



井上ひさしベスト・エッセイ(ちくま文庫 い20-16)

井上 ユリ 編
井上 ひさし 著
筑摩書房

「日本のシェイクスピア」「言葉の魔術師」と評され、多彩な執筆活動を続けた井上ひさし。彼のエッセイ作品の中から主に文学・人・ことば・演劇・笑い・家族について書かれた作品を夫人が精選して収録する。佐藤優の解説付き。

2019:6./ 397p
978-4-480-43600-9
本体 ¥950+税



朝日新聞 2019/07/06



人類の起源、宗教の誕生～ホモ・サピエンスの「信じる心」が生まれたとき～(平凡社新書 913)

山極 寿一、小原 克博 著
平凡社

文明の誕生以前の人類にも宗教的な思考は存在していたのか。「神や仏を信じる力」はどのように生まれ、これからの人類に、なにをもたらすのか。霊長類学者と宗教学者が、人類史における宗教の存在をめぐり熱く議論する。

2019:5./ 221p
978-4-582-85913-3
本体 ¥840+税



朝日新聞 2019/07/06



あした死ぬには、<1>

雁 須磨子 著
太田出版
朝日新聞 2019/07/06

2019:6./ 153p
978-4-7783-2301-1
本体 ¥1,200+税



土と内臓～微生物がつくる世界～

デイビッド・モントゴメリー、アン・ビクレー、片岡 夏実 著
築地書館

マイクロバイオーム研究で明かされた人体での驚くべき微生物の働きと、土壌での微生物相の働きによる豊かな農業とガーデニング。微生物研究と人間の歴史を振り返り、微生物と動植物との共生関係、免疫との関わりを紹介する。

2016:11./
12p,333p,36p
978-4-8067-1524-5



朝日新聞 2019/07/06



自分で「始めた」女たち～「好き」を仕事にするための最良のアドバイス&インスピレーション～

グレース・ボニー、月谷 真紀 著
海と月社

料理研究家、デザイナー、作家、ミュージシャン…。さまざまな仕事で活躍中の 112 人の女性へのインタビューをまとめた本。女性たちの「ことば」と「姿」を紹介し、好きなことや夢を追いかけた先にある美しい世界を伝える。

2019:5./ 359p
978-4-903212-66-1
本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/07/06



世界の外あそび学じてん

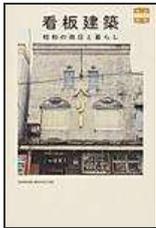
こどもくらぶ 著
今人舎

どうして世界中に同じようなあそびがあるの? 「おにごっこ」「ボールゲーム」「アジア」「ヨーロッパ他」などに分け、世界各国の外あそびを紹介。“ケンパ”の国ごとの違いを取り上げた特集も収録。見返しに地図あり。

2019:5./ 191p
978-4-905530-80-0
本体 ¥2,500+税



朝日新聞 2019/07/06



看板建築～昭和の商店と暮らし～

萩野 正和 著
トゥーヴァージンズ

建物自体は和風だが、正面部分を一枚の看板のように装飾した「看板建築」。現存する看板建築 10 店舗の店主の思いや、懐かしき街風景のアーカイブ、コラムなどを収録する。データ:2019 年 5 月現在。

2019/6./ 191p
978-4-908406-27-0
本体 ¥1,900+税



朝日新聞 2019/07/06



中華オタク用語辞典

はちこ 著
文学通信

中華圏で使われているオタク用語をまとめた辞典。マンガ、アニメ、ゲーム、アイドル、二次創作、エロなどに関する言葉を集成。10 年前から現在までのネットサービスを振り返るコラムも掲載。

2019/6./ 231p
978-4-909658-08-1
本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/07/06



<奇>と<妙>の江戸文学事典

長島 弘明 編
文学通信

<奇>と<妙>に溢れた、江戸文学の面白作品を有名無名とりまぜて選び、読める事典として編集した事典。73 項目・100 作品以上を収録し、あらすじ・見どころ・作品の背景などを解説。作品の活字翻刻・注釈書等も紹介する。

2019/5./ 12p,536p
978-4-909658-13-5
本体 ¥3,200+税



朝日新聞 2019/07/06



百鬼園戦前・戦中日記<上>

内田 百閒 著
慶應義塾大学出版会

内田百閒の生誕 130 年を記念して、未発表日記を含む、昭和 11 年 1 月 1 日から「東京焼盡」へと続く昭和 19 年 10 月末日までの日記を公開。「極めて特異な作家」による戦前・戦中の日常の貴重な記録。

2019/5./ 400p
978-4-7664-2603-8
本体 ¥4,500+税



朝日新聞 2019/07/06、東京・中日新聞 2019/07/14



百鬼園戦前・戦中日記<下>

内田 百閒 著
慶應義塾大学出版会

内田百閒の生誕 130 年を記念して、未発表日記を含む、昭和 11 年 1 月 1 日から「東京焼盡」へと続く昭和 19 年 10 月末日までの日記を公開。「極めて特異な作家」による戦前・戦中の日常の貴重な記録。

2019/5./ 352p,24p
978-4-7664-2604-5
本体 ¥4,500+税



朝日新聞 2019/07/06、東京・中日新聞 2019/07/14



彼女たちの場合は

江國 香織 著
集英社

「これは家出ではないので心配しないでね」14 歳と 17 歳。少女は 2 人きりで“アメリカを見る”旅に出た…。美しい風景と愛すべき人々、そして「あの日の自分」に出会える長編小説。『小説すばる』連載を加筆・修正。

2019/4./ 472p
978-4-08-771183-7
本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/07/06、読売新聞 2019/07/07



夢見る帝国図書館

中島 京子 著
文藝春秋

友人から依頼された「日本で最初の国立図書館の小説」を綴りながら、涙もろい大学教授や飄々たる元藝大生らと共に思い出をたどり、友人の人生と幻の絵本の謎を追い…。本を受した人々の物語。『別冊文藝春秋』連載を書籍化。

2019/5./ 404p
978-4-16-391020-8
本体 ¥1,850+税



朝日新聞 2019/07/06、読売新聞 2019/07/21



科学者は、なぜ軍事研究に手を染めてはいけないか

池内 了 著
みすず書房

科学者の軍事研究に絞った倫理規範の書。ナチスなどの歴史を考察し、防衛省創設の委託研究制度の詳細から、大学や科学者コミュニティの実際、デュアルユースのあり方まで、普遍的かつ喫緊のテーマの全体像を記す。

2019/5./ 252p,6p
978-4-622-08814-1
本体 ¥3,400+税



朝日新聞 2019/07/06、日本経済新聞 2019/07/06



コ・イ・ヌール～美しきダイヤモンドの血塗られた歴史～

ウィリアム・ダルリンプル、アニタ・アナンド、杉田 七重 著
東京創元社

暗殺、拷問、植民地支配…。インドから英国にわたるまでの数百年、その宝石はいかなる災いの人々にもたらしたのか。「光の山」という意味の巨大なダイヤモンド「コ・イ・ヌール」を巡る歴史を描く。

2019/5./ 266p,32p 図
版 16p
978-4-488-00391-3
本体 ¥2,700+税



朝日新聞 2019/07/06、日本経済新聞 2019/07/13



ジェインズヴィルの悲劇～ゼネラルモーターズ倒産と企業城下町の崩壊～

エイミー・ゴールドスタイン、松田 和也 著
創元社

ウィスコンシン州南西の街ジェインズヴィルでは、経済のすべてがゼネラルモーターズを中心に回っているといっても過言ではなかった。工場閉鎖によって引き起こされた企業城下町崩壊の実情を描くノンフィクション。

2019/6./ 427p
978-4-422-36010-2
本体 ¥2,400+税



朝日新聞 2019/07/06、日本経済新聞 2019/07/27



江藤淳は甦える

平山 周吉 著
新潮社

「平成」の空妄を予言し、現代文明を根底から疑った批評家・江藤淳。「成熟と喪失」「海は甦える」など、常に文壇の第一線で闘い続けた軌跡を、徹底的な取材により解き明かす。没後 20 年、自死の当日に会った著者による評伝。

2019/4./ 783p
978-4-10-352471-7
本体 ¥3,700+税



朝日新聞 2019/07/06、毎日新聞 2019/07/07



日本の国会～審議する立法府へ～(岩波新書 新赤版 1288)

大山礼子 著
岩波書店

政党間の駆け引きに終始し、実質的な審議が行われない国会。審議空洞化の原因はどこにあるのか。そして、どうすれば活性化できるのか。「ねじれ国会」が状態化した今、国会改革の理念と方針、そして具体案を提示する。

2011/1./ 224p
978-4-00-431288-8
本体 ¥840+税



朝日新聞 2019/07/13



不時着する流星たち(角川文庫 お31-7)

小川 洋子 著
KADOKAWA

ヘンリー・ダーガー、グレン・グールド、エリザベス・テイラー…。世界のはしっこでそつと異彩を放つ人々をモチーフに、その記憶、手触り、痕跡を結晶化した珠玉の10篇を掲載。

2019/6./ 271p
978-4-04-108207-2
本体 ¥640+税



朝日新聞 2019/07/13



参議院とは何か～1947-2010～(中公叢書)

竹中 治堅 著
中央公論新社

法案審議を通じて政局をつくりだし、宰相を翻弄する権力とメカニズム。創設された1947年から政権交代直後の2010年にいたるまでに参議院が果たしてきた役割を辿り、「参議院問題」の根本を問う。

2010/5./ 378p
978-4-12-004126-6
本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2019/07/13



静かな雨(文春文庫 み43-3)

宮下 奈都 著
文藝春秋

忘れても忘れても、ふたりの世界は失われない。短期間しか新しい記憶を留めておけなくなってしまうこよみと、大学の研究室で働く行助。ふたりの恋を瑞々しい筆致で紡ぐ。「日をつなぐ」を併録して文庫化。

2019/6./ 171p
978-4-16-791293-2
本体 ¥560+税



朝日新聞 2019/07/13



ふるさとって呼んでもいいですか～6歳で「移民」になった私の物語～

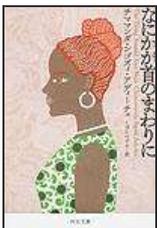
ナディ 著
大月書店

想定外な日本の暮らし、学校生活、在留特別許可、2つの国のはざままで揺れる思い…。6歳のとき、出稼ぎ労働目的の両親とともにイランから来日し、逆境の下でも周囲と家族に支えられ成長してきた著者が、これまでの歩みを綴る。

2019/6./ 233p
978-4-272-33096-6
本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/07/13



なにかが首のまわりに(河出文庫 ア10-1)

チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ 著
河出書房新社

アメリカに渡ったナイジェリアの少女の深い悲しみをみずみずしく綴った表題作(「アメリカにいる、きみ」改題)のほか、人種、ジェンダー、家族にまつわるステレオタイプな思考を解きほぐす、切なく繊細な短編全12編を収録。

2019/7./ 318p
978-4-309-46498-5
本体 ¥1,150+税



朝日新聞 2019/07/13



平場の月

朝倉 かすみ 著
光文社

病院の売店で再会した、元男子の青砥と元女子の須藤。50年生きてきた男と女には、老いた家族や過去もあり…。心のすき間を埋めるような感情のうねりを、求めあう熱情を、生きる哀しみをしみじみと描く、大人の恋愛小説。

2018/12./ 245p
978-4-334-91256-7
本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/07/13



教皇庁の使者～幻想小説～

服部 独美 著
国書刊行会

皇帝の身代りとして男性を失った宝茶は、不思議な操り人形芝居を演じる老人と知り合う。ホームクルスの秘密、教皇庁から来た使者たちと船の秘儀…。全世界が鳥のとどまる一瞬の夢と現する、長篇幻想小説。

2019.5./ 274p
978-4-336-06357-1
本体 ¥2,500+税



朝日新聞 2019/07/13



官僚制と公文書～改竄、捏造、忖度の背景～(ちくま新書 1407)

新藤 宗幸 著
筑摩書房

公文書の改竄、エビデンスの捏造…。いつから日本の官僚機構は壊れてしまったのか。人事を含めた組織構造、意思決定、情報公開法や公文書管理法など、官僚統制のシステムを問いなおし、「官邸主導」の暴走をえぐる。

2019.5./ 250p
978-4-480-07223-8
本体 ¥820+税



朝日新聞 2019/07/13



民主主義の条件～大人が学んでおきたい政治のしくみ基礎のキソ～

砂原 庸介 著
東洋経済新報社

自民党はなぜ強いのか? 「統一地方選挙」って何のイミがあるの? ニュースを見るのが楽しくなる、「納得」のための政治学。「政治は嫌い」と言う前に、知っておきたい、考えておきたい 12 のことをイチから解説する。

2015.3./ 239p
978-4-492-21220-2
本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/07/13



記憶の箱舟～または読書の変容～

鶴ヶ谷 真一 著
白水社

西行はなぜ不吉とされる月蝕を詠んだのか? 書物の変遷と読書の変容。さらに両者の織りなす記憶という人間精神の多様ないとなみを、東西の知の歴史に重ね合わせる。

2019.5./ 260p,12p
978-4-560-09701-4
本体 ¥2,800+税



朝日新聞 2019/07/13



若い読者のための『種の起源』～入門生物学～

チャールズ・ダーウィン、レベッカ・ステフォフ、鳥見 真生 著
あすなろ書房

ダーウィンは、どのように独自の思考を組み立てたのか? 生物学の礎「種の起源」のボリュームを圧縮し、言葉も平易に置き換えてリライト。歴史的名著のエッセンスを凝縮したコンパクト版。現代科学の動向に関するコラム付き。

2019.5./ 224p
978-4-7515-2937-9
本体 ¥2,500+税



朝日新聞 2019/07/13



人類の歴史とAIの未来

バイロン・リース、古谷 美央 著
ディスカヴァー・トゥエンティワン

人工知能は脅威か? 救世主か? 「人類とは何か」が分からないまま、AI を理解することはできない。言語と火、農業と都市、文字と車輪といったテーマで人類の歴史をひも解きながら、AI の本質にせまる。

2019.4./ 431p
978-4-7993-2462-2
本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2019/07/13



政党政治の制度分析～マルチレベルの政治競争における政党組織～

建林 正彦 著
千倉書房

1994 年に行われた衆議院の選挙制度改革を中心とする政治制度改革によって、何が変化し、変化しなかったのか。政治制度改革以降の日本の政党政治の様相を描き出す。

2017:10./ 261p
978-4-8051-1119-2
本体 ¥4,600+税



朝日新聞 2019/07/13



ぼそぼそ声のフェミニズム

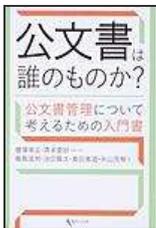
栗田 隆子 著
作品社

現在の社会が見ないようにしてきた問題を、さらには、フェミニズム理論や社会運動からすらこぼれ落ちたものを、拾い集めてつぶやき続ける。「なかったこと」にされないために…。過去に発表した論説やエッセイに加筆し書籍化。

2019:6./ 224p
978-4-86182-751-8
本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/07/13



公文書は誰のものか?～公文書管理について考えるための入門書～

榎澤 幸広、清末 愛砂 著
現代人文社

モリカケ、イラク日報…。近年、公文書の取扱いが問題となっている。公文書問題を概観し、日本の公文書管理体制を確認。さらに、日常生活と公文書問題の関係性を論じ、現状を打破するために必要な公文書管理体制を検討する。

2019:4./ 173p
978-4-87798-724-4
本体 ¥1,900+税



朝日新聞 2019/07/13



ひとりで暮らす、ひとりを支える～フィンランド高齢者ケアのエスノグラフィー～

高橋 絵里香 著
青土社

「豊かで手厚い福祉」というイメージの北欧・フィンランド。しかし、実際はどうなのか。長年、島嶼地域に暮らす独居高齢者たちを調査してきた気鋭の文化人類学者が、フィンランドの高齢者介護のリアルを描き出す。

2019:4./ 261p
978-4-7917-7161-5
本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/07/13、読売新聞 2019/07/21



三人の逞しい女

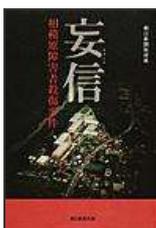
マリー・ンディアイ、小野 正嗣 著
早川書房

父に捨てられた弁護士のノラ、移住先で教師の職を捨てなければならなかったファンタ、夫を失ったカディ・デンバ。悩み、悲嘆に暮れ、疑念に駆られ、騙され、ときに辱められていく三人の女たちの絡み合う生を描く。

2019:5./ 339p
978-4-15-209313-4
本体 ¥2,900+税



朝日新聞 2019/07/13、日本経済新聞 2019/07/27



妄信～相模原障害者殺傷事件～

朝日新聞取材班 著
朝日新聞出版

平成最悪の事件が映し出す社会の闇。相模原障害者殺傷事件の被害者の遺族、障害を持つ子どもを抱える人たちの思いとは…。取材ルポから浮かび上がる加害者像、問われる差別の実態に迫る。『朝日新聞』掲載記事をもとに書籍化。

2017:6./ 238p
978-4-02-251477-6
本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2019/07/20



獵犬の旗(角川文庫 し 67-2)

芝村 裕吏 著
KADOKAWA

日本の情報機関に使われる外国人スパイとなった男が休暇を取った日、日本のまどろみは崩壊した。関西国際空港に新宿駅、日本の主要都市で起きる爆弾テロに銃撃テロに、男が動く。現代日本を舞台とした、至極のスパイ小説。

2019:6./ 264p
978-4-04-107649-1
本体 ¥680+税



朝日新聞 2019/07/20



地中海の十字路=シチリアの歴史(講談社選書メチエ 703)

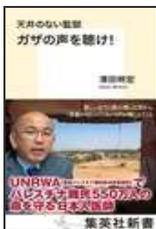
藤澤 房俊 著
講談社

古くはギリシア人とフェニキア人が覇権を争い、次にローマの穀倉となり、中世にはイスラーム勢力、ノルマン人が栄光の時代をもたらす。さらにフランス、スペイン、イギリスの確執。シチリア島から世界史を照射する。

2019:6./ 261p
978-4-06-516328-3
本体 ¥1,750+税



朝日新聞 2019/07/20



天井のない監獄ガザの声を聴け!(集英社新書 0976)

清田 明宏 著
集英社

この10年で3度の戦争を経験しており、現在も「天井のない監獄」と世界で評されるガザ。UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)の保健局長としての日々の活動から、そこに生きる市井の人々の生の声を届ける。

2019:5./ 189p
978-4-08-721076-7
本体 ¥780+税



朝日新聞 2019/07/20



片喰と黄金(ヤングジャンプコミックス)

北野 詠一 著
集英社

1848年、カリフォルニアで発見された一粒の黄金をきっかけに始まったゴールドラッシュ。黄金発見の翌年、1849年。噂は世界中へ広がり、野心家たちが無名の田舎町へと押し寄せていた。

2019:6./ 192p
978-4-08-891303-2
本体 ¥600+税



朝日新聞 2019/07/20



日本銀行「失敗の本質」(小学館新書 343)

原 真人 著
小学館

黒田日銀はなぜ「誤算」の連続なのか。その疑問を解くヒントは、かつての日本軍の失敗研究にあった。『朝日新聞』編集委員が、アベノミクスと異次元緩和の6年間の取材を振り返りつつ、政権と日銀の「失敗の本質」を考える。

2019:4./ 253p
978-4-09-825343-2
本体 ¥840+税



朝日新聞 2019/07/20



米中ハイテク覇権のゆくえ(NHK 出版新書 589)

NHK スペシャル取材班 著
NHK出版

情報・金融・AIなどのハイテク分野で、アメリカの覇権を揺るがし始めている中国。日本の命運を左右する、2つの超大国の競争の真実に迫る。NHKスペシャルをもとに新書化。

2019:6./ 222p
978-4-14-088589-5
本体 ¥800+税



朝日新聞 2019/07/20



ダラスの赤い髪(ハヤカワ・ミステリ文庫 HM 472-1)

キャスリーン・ケント、府川 由美恵 著
早川書房

テキサス州ダラス市警麻薬捜査課のタフな赤毛の刑事ベティが追うメキシコ系麻薬カルテルの重要参考人が殺された。増える犠牲者、混乱する捜査...やがて彼女が直面する国境地帯の犯罪の真相とは。ベティの闘いを描いた犯罪小説。

2019.7./ 447p
978-4-15-183801-9
本体 ¥1,120+税



朝日新聞 2019/07/20



天才の思考～高畑勲と宮崎駿～(文春新書 1216)

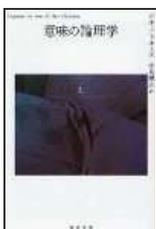
鈴木 敏夫 著
文藝春秋

「風の谷のナウシカ」から「風立ちぬ」「かぐや姫の物語」まで。高畑勲と宮崎駿、二人の天才の創造の秘密、強烈過ぎる個性のぶつかり合いを、最も間近で支え続けたプロデューサーが語る。最初で最後の特別鼎談も収録。

2019.5./ 426p
978-4-16-661216-1
本体 ¥1,200+税



朝日新聞 2019/07/20



意味の論理学<上>(河出文庫)

G.ドゥルーズ 著
河出書房新社

『差異と反復』から『アンチ・オイディプス』への飛躍を画する哲学者ドゥルーズの主著、渴望の新訳。アリスとアルトーを伴う驚くべき思考の冒険とともにドゥルーズの核心的主題があかされる。

2007.1./ 307p
978-4-309-46285-1
本体 ¥1,000+税



朝日新聞 2019/07/20



昭和の落語名人列伝(淡交新書)

今岡 謙太郎、中川 桂、宮 信明、重藤 暁 著
淡交社

第二次世界大戦、戦後の復興、バブル経済の盛衰...。五代目三遊亭圓生、初代桂春團治、七代目立川談志ら、激動の時代を生き抜き、昭和の落語界に足跡を残した東西落語家 46 人の人と芸を紹介する。

2019.7./ 327p
978-4-473-04288-0
本体 ¥1,300+税



朝日新聞 2019/07/20



自公政権とは何か～「連立」にみる強さの正体～(ちくま新書 1408)

中北 浩爾 著
筑摩書房

2016 年の参院選以降、衆参両院で過半数を占める自民党は、単独政権が可能なのに、なぜ連立を解消しないのか? 自公政権を中心に多角的な分析を行い、強さの理由を解き明かす。

2019.5./ 364p
978-4-480-07216-0
本体 ¥1,000+税



朝日新聞 2019/07/20



虐待された少年はなぜ、事件を起こしたのか(平凡社新書 911)

石井 光太 著
平凡社

虐待を受けた少年はなぜ、自らが犯した罪と向き合おうとしないのか。被虐待、性非行、ドラッグ依存、発達障害との関係...。少年犯罪の病理と矯正教育の最前線を追う。『こころ』掲載を加筆し書籍化。

2019.5./ 389p
978-4-582-85911-9
本体 ¥980+税



朝日新聞 2019/07/20



沈黙の少女(扶桑社ミステリー ト14-1)

ズラン・ドヴェンカー、小津 薫 著
扶桑社

雪の夜、ベルリン。何者かに誘拐され、2週間後保護された13歳のルチアは6年間謎の沈黙を守り続ける。一方、教師のミカは4人の男たちと接触し、仲間となることに成功する。それはずっと温めてきた計画の第一歩だった...

2019/6./ 485p
978-4-594-08243-7
本体 ¥1,080+税

朝日新聞 2019/07/20



高村光太郎の戦後

中村 稔 著
青土社

戦争を賛美した2人の巨人、詩人・彫刻家の高村光太郎と歌人の斎藤茂吉。戦後書かれた光太郎の「典型」と茂吉の「白き山」を緻密な論証により評価し、光太郎の十和田湖裸婦像の凡庸な所以を新たな観点から解明する。

2019/5./ 477p
978-4-7917-7163-9
本体 ¥2,600+税

朝日新聞 2019/07/20



世界の秘密都市～ビジュアルストーリー～(NATIONAL GEOGRAPHIC)

ジュリアン・ビークロフト、大島 聡子 著
日経ナショナルジオグラフィック社

日常を離れて生きる修行者の村、極秘裏に作られた米軍の原爆施設、旧ソ連や中国の地図にない町、長期生活が可能な核シェルター...。地球に残る世界各地の秘密都市を美しい写真で紹介する。

2019/6./ 191p
978-4-86313-436-2
本体 ¥2,180+税

朝日新聞 2019/07/20



人生で大切なことは泥酔に学んだ

栗下 直也 著
左右社

無銭飲食で友人を置き去りにした太宰治。一升瓶を抱えて水道橋駅のホームから落下した小林秀雄...。通勤、宴会での振る舞い、リスク管理など社会人に身近な題材と偉人の酒での失敗を結び、そこから処世術を学ぶ。

2019/6./ 238p
978-4-86528-239-9
本体 ¥1,800+税

朝日新聞 2019/07/20



生きている!殺すな～やまゆり園事件の起きる時代に生きる障害者たち～

「生きている!殺すな」編集委員会 編
山吹書店

いきいきと生きる障害者の現実を知らせるために。障害者や難病患者、親、支援者の21人が、障害、介護、人生、生活、仕事、そして2016年の津久井やまゆり園事件について綴る。「19の軌跡」等の音楽を収めたCD付き。

2017/10./ 205p
978-4-86538-064-4
本体 ¥1,800+税

朝日新聞 2019/07/20



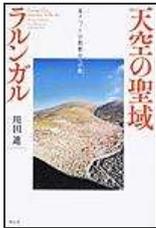
牡丹社事件マブイの行方～日本と台湾、それぞれの和解～

平野 久美子 著
集広舎

日台の近代史は「牡丹社事件」から始まった! 犠牲者のマブイ(魂)を想い、百数十年の時空を超えて向き合った遺族たち。加害と被害の歴史をめぐって繰り広げられた知られざる和解劇を描くノンフィクション。

2019/5./ 326p
978-4-904213-72-8
本体 ¥1,852+税

朝日新聞 2019/07/20



天空の聖域ランガル～東チベット宗教都市への旅～

川田 進 著
集広舎

1980年、東チベットの4000mの谷あいの地に開設された小さな仏教学院が、いつしか1万人以上の学僧と広大な僧坊群を擁する宗教都市となった。漢人にも影響を与え始めた“天空の聖地”の歴史と魅力に迫る。

2019:5./ 221p 図版

16p

978-4-904213-73-5

本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2019/07/20



開けられたパンドラの箱～やまゆり園障害者殺傷事件～

月刊『創』編集部 編
創出版

2016年、19人の障害者が刺殺されたやまゆり園事件。事件を起こした犯人・植松聖被告が面会室で語った言葉や、精神科医による検証を収録。事件とどう向き合うかを考える。『創』に掲載された2年間の主な記事を加筆修正。

2018:7./ 254p

978-4-904795-53-8

本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2019/07/20



あふれでたのはやさしさだった～奈良少年刑務所絵本と詩の教室～

寮 美千子 著
西日本出版社

詩が少年たちの心の扉を開き、仲間が受け止めてくれる。「社会性涵養プログラム」の一環として、著者が2007?16年に奈良少年刑務所で行った「物語の教室」の軌跡を記した書。犯罪を犯した少年たちの本当の姿を伝える。

2018:12./ 223p

978-4-908443-28-2

本体 ¥1,000+税



朝日新聞 2019/07/20



ランベルマイユコーヒー店

ミシマ社

ランベルマイユのコーヒー屋さんから、朝の香りがたちこめて。コーヒーを愛するすべての人たちに贈る絵本。京都の老舗珈琲店「六曜社」のマスター、オクノ修の名曲に触発され、画家のnakabanが長年温め続けた作品。

2019:7./ 1冊(ページ

付なし)

978-4-909394-23-1

本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2019/07/20



仲野教授のそろそろ大阪の話をしよう

仲野 徹 著
ミシマ社

大阪人、大阪弁、花街話、大阪城、鉄道、食、音楽…。大阪・千林育ちの仲野教授が、高島幸次、キダ・タロー、柴崎友香ら大阪を深く知る12人と、知られざる大阪について語り合う。『望星』連載を単行本化。

2019:7./ 331p

978-4-909394-24-8

本体 ¥1,900+税



朝日新聞 2019/07/20



おしゃれ文化史～飛鳥時代から江戸時代まで～

ポーラ文化研究所 著
秀明出版会

白粉(おしろい)化粧はいつから? おちゃっぴいって何のこと? 伝統化粧のはじまりと発展から、江戸時代のよそおい・化粧、浮世絵にみる「粋」まで、その時代の美を彩ったおしゃれの歴史を豊富な図版を交えて解説する。

2019:6./ 185p

978-4-915855-35-1

本体 ¥1,200+税



朝日新聞 2019/07/20



生命の歴史は繰り返すのか?～進化の偶然と必然のナゾに実験で挑む～

ジョナサン・B.ロソス、的場 知之 著

化学同人

進化は偶然か、必然か。世界各地を訪れ、地球の生命史における最大のミステリーを進化実験で解決しようとする研究者たちの奮闘。進化生物学の最先端で今おこなわれていることを、明晰かつ面白おかしく描き出す。

2019:5./ 16p,382p

978-4-7598-2007-2

本体 ¥2,800+税



朝日新聞 2019/07/20、日本経済新聞 2019/07/20



愛を知らない

一木 けい 著

ポプラ社

高校2年生の橙子は、合唱コンクールのソロパートを任されることに。友人たちは、橙子が時折口走る不思議な言い訳や理解のできない行動に首をかしげていたが、ある事件をきっかけに橙子の抱えていた秘密を知ることになり...

2019:6./ 266p

978-4-591-16323-8

本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2019/07/23



世界をわからないものに育てること～文学・思想論集～

加藤 典洋 著

岩波書店

「巨匠とマルガリータ」から「永遠の0」「東京プリズン」まで。同時代と歴史に沈潜し、文学の<現在>を浮き彫りにする。主に2011年以降の論考、エッセイ、講演記録、文庫解説などを収録。

2016:9./ 6p,272p

978-4-00-061148-0

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/07/27



女たちのテロル

ブレイディみかこ 著

岩波書店

生きる主権は我にあり。金子文子、エミリー・デイヴィソン、マーガレット・スキニダー。道徳や恋愛の呪縛を超え、全力で生き、闘った女たちを甦らせ、未来へ解き放つ伝記エッセイ。『図書』連載に書き下ろしを追加。

2019:5./ 256p

978-4-00-061342-2

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/07/27



小説の未来

加藤 典洋 著

朝日新聞社

大江健三郎、高橋源一郎、阿部和重らが試みる「テキスト論破り」の小説とは?なぜ金井美恵子、吉本ばなな、川上弘美は「商店街」を舞台に小説を書くの?90年代以降に生まれた作品の新しさと面白さを講義形式で伝える。

2004:1./ 366p

978-4-02-257894-5

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/07/27



あららのはたけ

村中 李衣、石川 えりこ 著

偕成社

畑の作物も虫もみんな自分のペースで生きている。横浜に住むエミと、山口に引っ越したえり。自然の不思議といじめに向き合う子どもの心を、少女たちの手紙のやりとりを通して描く。『Kaisei Web』連載を単行本化。

2019:6./ 211p

978-4-03-530950-5

本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2019/07/27



天才ルーシーの計算ちがい(講談社・文学の扉)

ステイシー・マカナルティ、田中 奈津子 著
講談社

雷に打たれ、数学の天才になってしまったルーシー。飛び級で大学にも行けることになった12歳のある日、おばあちゃんはルーシーに、「1年間中学校に通う」「友だちを1人作る」「数学以外の本を読む」などの課題を出して…。

2019/4./ 287p
978-4-06-515262-1
本体 ¥1,500+税

朝日新聞 2019/07/27



まよなかのせおよぎ(講談社の創作絵本)

近藤 未奈 著
講談社

眠れない夜、女の子が窓の外をのぞいたら、空に浮かんで背泳ぎしている人を見つけた。おどろいて夢中で追いかけていくと…。眠りについた街で、ひそやかに繰り返される、こころよい浮遊感と静けさが漂う物語。

2019/6./ 32p
978-4-06-516252-1
本体 ¥1,300+税

朝日新聞 2019/07/27



慈雨(集英社文庫 ゆ 13-1)

柚月 裕子 著
集英社

16年前の少女殺害と酷似した事件が発生。かつて刑事として捜査にあたった神場は、退職した身で現在の事件を追いつめる。消せない罪悪感を抱えながら…。元警察官の魂の彷徨を描く。

2019/4./ 406p
978-4-08-745858-9
本体 ¥760+税

朝日新聞 2019/07/27



真実の終わり

ミチコ・カクタニ、岡崎 玲子 著
集英社

客観的事実が消えゆく世界で、私たちはどう生きるべきか。トランプ政権に象徴される民主主義の危機、フェイクニュースやプロパガンダがはびこる現代社会の闇を、米文壇無比の文芸評論家が読み解く。

2019/6./ 172p
978-4-08-773496-6
本体 ¥1,700+税

朝日新聞 2019/07/27



老いのゆくえ(中公新書 2548)

黒井 千次 著
中央公論新社

優先席での年齢比べ、一向に進まない本の整理、曲げた腰を伸ばす難しさ、隙を見ては襲ってくる眠気、病気との付き合い方…。85歳の「区切り」を超えた作家が、老いゆえの失敗と喜びを描く。

2019/6./ 235p
978-4-12-102548-7
本体 ¥820+税

朝日新聞 2019/07/27



ディック・ブルーナ〜ミッフィーと歩いた60年〜(文春文庫 も 31-1)

森本 俊司 著
文藝春秋

ミッフィー生みの親、ディック・ブルーナ。意外と知られていないその素顔、そして“世界一愛される絵本”誕生の秘密とは。ブルーナとその関係者に取材を続けてきた著者が、絵本に込められた作者の想いに迫る。

2019/7./ 286p
978-4-16-791319-9
本体 ¥750+税

朝日新聞 2019/07/27



<性>なる家族

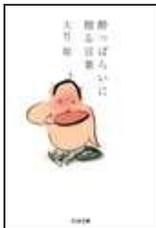
信田 さよ子 著
春秋社

性虐待、DV、セックスレス、不妊治療…。ほとんど表面化することのない家族における性の問題について、カウンセリング経験をもとにさまざまな角度から述べる。『春秋』『ウェブ春秋はるとあき』掲載を再構成・加筆訂正。

2019/5./ 252p
978-4-393-36642-4
本体 ¥1,700+税



朝日新聞 2019/07/27



酔っぱらいに贈る言葉(ちくま文庫 お62-4)

大竹 聡 著
筑摩書房

良酒あらば飲むべし 友来らば飲むべし のど、渴きたらば飲むべし…。古今東西の作家、落語家、タクシー運転手、俳優などによる酒にまつわる名言を集め、それらへの思いを綴る。

2019/6./ 210p
978-4-480-43604-7
本体 ¥680+税



朝日新聞 2019/07/27



星降る島のフットボーラー

倉敷 保雄 著
双葉社

大西洋に浮かぶ7つの島による天の川リーグに加盟するエストレージャFCに入団したハル。だが、チームは存亡の危機に…。サッカー実況のカリスマがマイクをペンに持ち替え、理想のフットボールを展開するファンタジック小説。

2019/5./ 363p
978-4-575-24177-8
本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/07/27



政治的イコノグラフィーについて

カルロ・ギンズブルグ、上村 忠男 著
みすず書房

神聖さを利用する世俗画、戦争ポスター、ピカソの「ゲルニカ」…。イメージには権力を発揮する仕掛けが隠されている。政治的イコノグラフィー、すなわち図像の発揮する政治的効果をめぐる5本の論考を収録する。

2019/6./ 247p,8p
978-4-622-08815-8
本体 ¥4,800+税



朝日新聞 2019/07/27



つながる

長倉 洋海 著
アリス館

家族、友達、地域、国…人とつながることは、自分が生きるための根っこをのばすことになる。写真を撮る旅で出会った世界各地の人びと、美しい光景、動物や花ばなを通して「つながる」ということを考える。見返しに写真あり。

2019/6./ 38p
978-4-7520-0892-7
本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2019/07/27



百年の批評～近代をいかに相続するか～

福嶋 亮大 著
青土社

近代は終わった？ だが、それは無にはならない。「日本は近代のテスターである」というテーゼを掲げて、オリジナルな平成文学論から、鋭角的な少国民世代論・物語論までを一挙展開。百年の日本を展望する。

2019/5./ 354p,12p
978-4-7917-7167-7
本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2019/07/27



ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー〜The Real British Secondary School Days〜

ブレイディみかこ 著

新潮社

優等生の「ぼく」が通い始めたのは、人種も貧富もごちゃまぜの「元・底辺中学校」。世界の縮図のような日常を、思春期真っ只中の「ぼく」と著者である母は、ともに考え悩み乗り越え…。傑作エッセイ。『波』連載を書籍化。

2019:6./ 252p
978-4-10-352681-0
本体 ¥1,350+税



朝日新聞 2019/07/27、毎日新聞 2019/07/28



愛は愛は愛は

時実 新子、「現代川柳」編集部 編

時実 新子 著

左右社

手が好きでやがてすべてが好きになる 伝染ってもいいかと愛は愛は愛は 稀にある美しい日が今日だった 川柳界の与謝野晶子と呼ばれた、時実新子のアンソロジー。全集未収録句・未発表句を含む珠玉の352句を収録。

2019:6./ 95p
978-4-86528-237-5
本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2019/07/28



僕が夫に出会うまで

七崎 良輔 著

文藝春秋

幼少期のいじめ、学生時代の初恋、失恋、抑えきれない嫉妬、そして友人、親へのカミングアウト。2015年、築地本願寺ではじめての「同性結婚式」を挙げた著者が、その半生を振り返る。

2019:5./ 285p
978-4-16-391031-4
本体 ¥1,300+税



東京・中日新聞 2019/07/07



金剛の塔

木下 昌輝 著

徳間書店

百済からきた宮大工たちが伝えた技術は、飛鳥、平安、戦国時代と受け継がれた。火災や戦乱で何度も焼失しながら、五重塔は甦り…。現代の高層建築にも生きている「心柱構造」誕生と継承の物語。『読楽』掲載を加筆し書籍化。

2019:5./ 362p
978-4-19-864847-3
本体 ¥1,700+税



東京・中日新聞 2019/07/07



美しく呪われた人々

F.スコット・フィッツジェラルド、上岡 伸雄 著

作品社

デビュー作「楽園のこちら側」と永遠の名作「グレート・ギャツビー」の間に書かれたフィッツジェラルドの長編第2作。刹那的に生きる<失われた世代>の若者たちを絢爛たる文体で描く。

2019:4./ 484p
978-4-86182-737-2
本体 ¥3,200+税



東京・中日新聞 2019/07/07



セレモニー

王 力雄、金谷 譲 著
藤原書店

国家安全委員会弁公室の蘇主任は、全国民を監視する IT 技術を駆使して、極秘の計画をスタートさせる。それは自身が“上”へと這い上がるための周到な計画だったが…。反体制派の著名作家による、中国未公開の問題作。

東京・中日新聞 2019/07/07

2019/4./ 441p
978-4-86578-222-6
本体 ¥2,800+税



ぼくを忘れないで(海外文学セレクション)

ネイサン・ファイラー、古草 秀子 著
東京創元社

ダウン症だった兄・サイモンの死は、幼かったマシューの思いつきがもたらしたようなものだった。罪の意識に苛まれるマシュー。彼には「ぼくを忘れないで」というサイモンの声がいつも聞こえていて…。

東京・中日新聞 2019/07/14

2019/5./ 308p
978-4-488-01671-5
本体 ¥2,600+税



むらさきのスカートの女

今村 夏子 著
朝日新聞出版

近所に住む「むらさきのスカートの女」が気になる<わたし>。自分と同じ職場で働くよう彼女を誘導し、その生活を観察し続け…。狂気と紙一重の滑稽さ。<わたし>が望むものは? 『小説トリッパー』掲載を単行本化。

東京・中日新聞 2019/07/14、読売新聞 2019/07/28

2019/6./ 158p
978-4-02-251612-1
本体 ¥1,300+税



王家の遺伝子~DNA が解き明かした世界史の謎~(ブルーバックス B-2099)

石浦 章一 著
講談社

駐車場から掘り起こされた遺骨は、シェークスピアが嫌ったあの国王だった! 英国王室とエジプトのファラオを対象におこなわれた DNA 解析の結果をもとに、「勝者の歴史」が覆い隠した「王家の真実」を解明する。

東京・中日新聞 2019/07/21

2019/6./ 254p
978-4-06-516614-7
本体 ¥1,000+税



モロイ

サミュエル・ベケット、宇野 邦一 著
河出書房新社

「私は母の部屋にいる」母のところにとり着こうとするモロイ、モロイにとり着かないモラン。奇妙な自己喪失、心身の不可解な消耗、歪んだ時空…。世界現代文学における不朽の名作、ベケットの「小説3部作」の第1作。

東京・中日新聞 2019/07/21

2019/5./ 316p
978-4-309-20769-8
本体 ¥2,900+税



ハンナ・アーレント~屹立する思考の全貌~(ちくま新書 1416)

森分 大輔 著
筑摩書房

何ものにも依らないユニークな「手摺なき思考」が注目されたアーレント。アーレントの主要な各作品を詳細に読み解き、全体主義が勃興して消えて行った激動の現代史を考察し続けた彼女の思索の最深部に迫る。

東京・中日新聞 2019/07/21

2019/6./ 285p
978-4-480-07230-6
本体 ¥880+税





異能の日本映画史～日本映画を読み直す～

木全 公彦 著
彩流社

佐分利信、清水宏、木村元保、早川雪洲…。埋もれた異能の業績と名匠たちの知られざる逸話を、緻密な調査で掘り起こす、もうひとつの映画史。ウェブサイト『映画の國』掲載などをもとに書籍化。

東京・中日新聞 2019/07/21

2019/6./ 295p
978-4-7791-2591-1
本体 ¥3,000+税



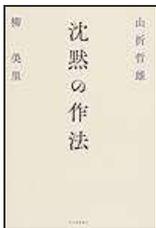
モスクワの伯爵

エイモア・トールズ、宇佐川 晶子 著
早川書房

1922年、モスクワ。革命政府に無期限の軟禁刑を下された伯爵は、絶望に沈みゆく中で紳士の流儀を貫くことを選ぶ。人をもてなし、身のまわりを整え、人生を投げ出さない。やがて彼は宿泊客や従業員たちと友情を深めるが…。

東京・中日新聞 2019/07/28

2019/5./ 619p
978-4-15-209860-3
本体 ¥3,600+税



沈黙の作法

山折 哲雄、柳 美里 著
河出書房新社

青春のすべてを賭けた長編「命」四部作、その後の大震災…。生と死、問い、独り、そして沈黙。人は言葉ではなく、沈黙によって結ばれる。宗教学者と小説家が6夜にわたって語り尽くした記録。

東京・中日新聞 2019/07/28

2019/6./ 261p
978-4-309-02804-0
本体 ¥1,700+税



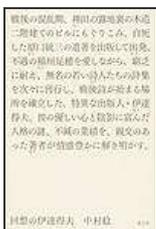
さよならの儀式～8 Science Fiction Stories～

宮部 みゆき 著
河出書房新社

小さな漁村に、海の向こうから「屍者」のトムさんがやってきて…。「海神の裔」をはじめ、親子の救済、老人の覚醒、別の人生の模索などを描いた作品全8編を収録。『小説すばる』『NOVA』ほか掲載を書籍化。

東京・中日新聞 2019/07/28

2019/7./ 413p
978-4-309-02807-1
本体 ¥1,600+税



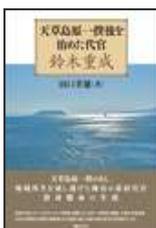
回想の伊達得夫

中村 稔 著
青土社

特異な詩書出版社・書肆ユリイカの社主、伊達得夫とはどういう人物なのか。優しい心と陰影に富んだ人格の謎、不滅の業績を、親交のあった著者が情感豊かに解き明かす。

東京・中日新聞 2019/07/28

2019/6./ 253p
978-4-7917-7176-9
本体 ¥1,800+税



天草島原一揆後を治めた代官鈴木重成

田口 孝雄 著
弦書房

天草島原一揆のあと地域再生を成し遂げた幕府代官、鈴木重成。原城で死んでいったキリシタンの供養、疲弊した村への移民の誘致、大胆な年貢減免、社寺の再興など、特異な復興策とその思想の核心を浮き彫りにする。

東京・中日新聞 2019/07/28

2019/6./ 270p 図版
12p
978-4-86329-190-4
本体 ¥2,200+税



**生命と直観～よみがえる今西錦司～**富岡 幸一郎 著
アーツアンドクラフツ

3.11 は巨大な災厄であるとともに、近代科学イデオロギーの破綻の宣告であった。今西錦司が遺した「世界観」を再検討し、この危機的状况を乗り越えるヒントを得る。自然民俗誌『季刊やま かわ うみ』連載を大幅加筆修正。

読売新聞 2019/07/28

2019.5./ 165p
978-4-908028-37-3
本体 ¥1,600+税**カビはすごい!～ヒトの味方か天敵か!?(朝日文庫 は 48-1)**浜田 信夫 著
朝日新聞出版

人に害を与えもすれば、画期的な医薬品も生んでいるカビ。カビの正体や作用、人とカビのかかわりの歴史を詳述するとともに、洗濯機、浴室、食品に発生するカビなど身近な事例から、カビ対策やカビとのつきあい方も探る。

読売新聞 2019/07/07

2019.6./ 302p
978-4-02-261970-9
本体 ¥740+税**グラスホッパー(角川文庫)**伊坂 幸太郎 著
角川書店

妻の復讐を目論む元教師「鈴木」。自殺専門の殺し屋「鯨」。ナイフ使いの天才「蟬」。3人の思いが交錯するとき、物語は唸りをあげて動き出す。疾走感溢れる筆致で綴られた、分類不能の「殺し屋」小説！

読売新聞 2019/07/07

2007.6./ 345p
978-4-04-384901-7
本体 ¥590+税**ザ・ファブル<1>(ヤンマガ KC スペシャル)**南 勝久 著
講談社

『なにに友あれ』完結から 4 ヶ月。南勝久、新連載銃撃開始ッ!! 鈍色の愛銃ナイトホークを手に、“殺し屋ファブル”が町にやってくるー!!

読売新聞 2019/07/07

2015.3./ 208p
978-4-06-382563-3
本体 ¥565+税**ビールの教科書(講談社学術文庫 2558)**青井 博幸 著
講談社

エールとラガーの違い、生ビールの「生」の意味、「キレ」「コク」の正体…。自ら地ビール工場を構えた経験を踏まえ、ビールの歴史、造り方、原材料、国ごとのスタイル、鑑定法などを余すところなく解説する。

読売新聞 2019/07/07

2019.6./ 243p
978-4-06-515952-1
本体 ¥1,000+税**手塚治虫とトキワ荘**中川 右介 著
集英社

手塚治虫、藤子不二雄 A、藤子・F・不二雄、石ノ森章太郎、赤塚不二夫…。若き巨匠たちが集った聖地・トキワ荘。膨大な資料をもとに、手塚治虫とトキワ荘グループの業績を再構築し、日本のマンガ出版史を描く。

読売新聞 2019/07/07

2019.5./ 383p
978-4-08-781668-6
本体 ¥1,900+税



サービスの達人たち～おもてなしの神～(新潮文庫 の-13-4)

野地 秩嘉 著
新潮社

銀座の寿司屋の女子親方、人気立ち食いそば屋の店主、癒しのレクサスオペレーター…。10人のプロフェッショナルの働く姿勢と素顔を紹介し、サービスの真髄に迫る。『小説新潮』掲載に書き下ろしを加えて文庫化。

2019/6./ 282p
978-4-10-136254-0

本体 ¥520+税



読売新聞 2019/07/07



諡～天皇の呼び名～

野村 朋弘 著
中央公論新社

中国の廟号・諡号との比較から、日本への諡号の導入、変容の過程を辿り、日本独自の諡号のあり方を解明する。さらに、王朝交代がなく、「万世一系」とされる日本において、諡号の果たした役割も考察する。

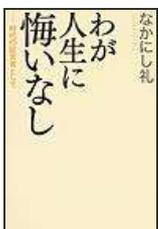
2019/5./ 211p

978-4-12-005194-4

本体 ¥1,600+税



読売新聞 2019/07/07



わが人生に悔いなし～時代の証言者として～

なかにし 礼 著
河出書房新社

「北酒場」(細川たかし)をはじめ数々の名曲を作詞し、小説「長崎ぶらぶら節」で直木賞に輝いたなかにし礼。言葉を自在に紡ぎ、人々に感動を与えてきた彼が、「これまで三度、死の淵に立った」という波乱の人生を綴る。

2019/6./ 201p

978-4-309-02805-7

本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/07/07



晩節の研究～偉人・賢人の「その後」～(幻冬舎新書 か-11-6)

河合 敦 著
幻冬舎

「崇り」に慄き死んでいった藤原道長。勘違いで殺人を犯して獄死した平賀源内…。有能な成功者である彼らはなぜ“晩節を汚す”ことになったのか? 30人の偉人たちの知られざる末路を繙き「人生の本質」を追求する。

2019/4./ 312p

978-4-344-98551-3

本体 ¥880+税



読売新聞 2019/07/07



内閣情報調査室～公安警察、公安調査庁との三つ巴の闘い～(幻冬舎新書 い-33-1)

今井 良 著
幻冬舎

約250人のスパイが総理の手足となって情報を収集・分析し、政策判断を支えている官邸直轄の情報機関「内閣情報調査室」。対北朝鮮交渉、諸外国スパイとの攻防など、数々の内幕を明らかにし、組織の全貌を描き出す。

2019/5./ 221p

978-4-344-98555-1

本体 ¥840+税



読売新聞 2019/07/07



ヨーロッパのかわいい刺?～イギリス、フランス、北欧、東欧...伝承のデザインと暮らしにまつわる物語～

誠文堂新光社 編
誠文堂新光社

王侯貴族によって花開いた装飾刺?、特色豊かな北欧・東欧の刺?など、ヨーロッパ各地に伝わる刺?を集めた本。貴重なアンティークから暮らしのなかの手仕事まで、それぞれの特徴や歴史的背景とともに紹介する。

2014/6./ 239p

978-4-416-31330-5

本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/07/07



津軽こぎん刺し～技法と図案集～

誠文堂新光社

津軽こぎん刺しは、極寒の北国に生きる女性たちが過酷な暮らしの中から生み出した、まさに「用の美」。こぎん刺しが生まれた背景と今日に至るまでのあゆみ、技法や図案を紹介します。

読売新聞 2019/07/07

2013:9./ 191p
978-4-416-61390-0

本体 ¥2,800+税



世界手芸紀行～アジア、アフリカ、ヨーロッパ、中米の手仕事をつなげる日本人女性たち～

日本ヴォーグ社

世界中いたるところにある、代々受け継がれてきた手仕事。それを世界の国々につなげる活動をしている日本人女性たちが、自身が関わっている国の手仕事や文化、生活について綴る。『毛糸だま』連載を書籍化。

読売新聞 2019/07/07

2017:1./ 160p
978-4-529-05630-4

本体 ¥2,000+税



新全体主義の思想史～コロンビア大学現代中国講義～

張 博樹、石井 知章、及川 淳子、中村 達雄 著

白水社

<党=国家>による苛烈な独裁下、思想はいかにして可能か？ 行動する知識人・張博樹が、天安門事件以来の中国政治思潮について考察する。米国コロンビア大学での講義録をもとに単行本化。

読売新聞 2019/07/07

2019:5./ 407p,27p
978-4-560-09699-4

本体 ¥4,200+税



40歳までにコレをやめる

岡田 育 著

サンマーク出版

ハイヒールをやめる、年齢を数えるのをやめる、節約をやめる、年賀状をやめる…。人気文筆家が 39 個の「常識」を捨てた、等身大エッセイ。読売新聞ウェブサイト『大手小町』連載を加筆し書籍化。

読売新聞 2019/07/07

2019:5./ 255p
978-4-7631-3760-9

本体 ¥1,500+税



『諸君!』のための弁明～僕が文藝春秋でしたこと、考えたこと～

仙頭 寿頭 著

草思社

「反・体制」ではなく「反・大勢」を目指して-。文藝春秋のオピニオン誌『諸君!』の編集に長年たずさわった編集者による、歯に衣着せぬ回想。洒脱な筆致で、迷走する雑誌ジャーナリズムの存在理由を問い直す。

読売新聞 2019/07/07

2019:5./ 390p
978-4-7942-2395-1

本体 ¥1,800+税



掃除道入門～こころを磨く、世界を磨く掃除の教え～

松本 紹圭 著

ディスカヴァー・トゥエンティワン

掃除には、お寺の修行の大切な要素がすべて詰まっている！ 東京神谷町・光明寺の僧侶が、宗派を超えた名僧との対談から見てきた、掃除と人の成長の関係について紹介。掃除が、世界を磨くこととどうつながるのかにも触れる。

読売新聞 2019/07/07

2019:4./ 191p
978-4-7993-2449-3

本体 ¥1,400+税





あり金は全部使い～貯めるバカほど貧しくなる～

堀江 貴文 著
マガジンハウス

小遣い制はやめろ、手柄は人にやれ、貸し金は捨て金と知れ、金持ちを目指すな、人に任せろ…。お金の呪縛を振り払い、悔いなく生きるための、ホリエモンのマネー哲学を紹介する。

2019/6./ 195p
978-4-8387-3056-8
本体 ¥1,300+税



読売新聞 2019/07/07



アリョーシャ年代記～春の夕べ～

工藤 正廣 著
未知谷

文学的魂を育んだ抒情言語が紡ぐ人と運命…。中世 14 世紀のロシアの曠野を舞台に、青年アリョーシャの成長を描く。詩的言語と散文との融合が心地良い傑作。

2019/5./ 294p
978-4-89642-576-5
本体 ¥2,500+税



読売新聞 2019/07/07



ミャオ族の刺?とデザイン

苗族刺?博物館 著
大福書林

子どもや身近な人を守りたい。魔除けと祈りが芸術へと昇華した。中国・貴州省に定住する少数民族・ミャオ族の古布、とくに刺?を中心に紹介する。ミャオ刺?の多彩なデザインや技巧を楽しめる一冊。

2016/3./ 155p
978-4-908465-01-7
本体 ¥2,800+税



読売新聞 2019/07/07



待機児童対策～保育の充実と女性活躍の両立のために～

八田 達夫 著
日本評論社

目指すべき待機児童対策とは? 経済同友会ウェブサイト掲載の待機児童対策の関係者へのインタビューを基に、事業者や自治体の問題意識や改革への提案、先進的な施策についてまとめると共に、日本の保育政策を改めて議論する。

2019/5./ 8p,246p
978-4-535-55943-1
本体 ¥2,200+税



読売新聞 2019/07/07、日本経済新聞 2019/07/13



特攻隊の故郷～霞ヶ浦・筑波山・北浦・鹿島灘～(歴史文化ライブラリー 485)

伊藤 純郎 著
吉川弘文館

若者たちは、なぜ、どのように、誰の命令で特攻隊員となったのか。筑波山を仰ぐ霞ヶ浦や、北浦・鹿島灘を望む地での厳しい訓練と、食事や外出などの生活から、特攻隊の原風景を探り、その歴史を問い直す。

2019/7./ 6p,224p
978-4-642-05885-8
本体 ¥1,700+税



読売新聞 2019/07/07、日本経済新聞 2019/07/27



イタリア史 10 講(岩波新書 新赤版 1766)

北村 暁夫 著
岩波書店

多様な人々が行きかい、豊かな歴史を織り上げてきたヨーロッパ・地中海世界の要たるイタリア。リソルジメント以降の近現代史はもちろん、古代・中世の諸勢力の興亡も叙述し、地域性や文化史にも着目して、その歩みを捉える。

2019/3./ 4p,286p,4p
978-4-00-431766-1
本体 ¥900+税



読売新聞 2019/07/14



化物?燭

木内 昇 著
朝日新聞出版

当代一の影絵師に大店から持ち込まれた奇妙な依頼。見えるはずのないものが見える乙次の、物の怪との対峙とその?末…。江戸の市井を舞台に描く、切なくはかない 7 つの奇譚。『小説現代』『小説トリッパー』掲載を単行本化。

読売新聞 2019/07/14

2019:7./ 316p
978-4-02-251613-8
本体 ¥1,600+税



万葉集をつくった男～小説・大伴家持～(角川文庫 し 43-3)

篠崎 紘一 著
KADOKAWA

古来、武をもって朝廷に仕えてきた大伴氏に、旅人、家持と、2 代続けて歌才に恵まれた当主が現れた。愛妻の死、叔母からの支配に苦悩しつつ、生まれながらの使命である「万葉集」編纂に奔走する大伴家持の姿を描く。

読売新聞 2019/07/14

2019:5./ 348p
978-4-04-108499-1
本体 ¥760+税



会社員とは何者か?～会社員小説をめぐる～

伊井 直行 著
講談社

会社員が主人公の小説って...おもしろいの? 源氏鶏太、山口瞳、津村記久子らの小説を取り上げ、誰も気づかなかった「会社員」の謎に迫る。『群像』連載に加筆し書籍化。

読売新聞 2019/07/14

2012:4./ 327p
978-4-06-217601-9
本体 ¥2,400+税



中村元の全国水族館ガイド 125～全館訪問取材～

中村 元 著
講談社

水族館プロデューサーである著者が、全国各地の水族館を豊富なカラー写真とともに紹介。展示のプロと利用者の両方の視点で、水族館それぞれの性格や展示に対する姿勢などをわかりやすく解説する。データ:2019年4月現在。

読売新聞 2019/07/14

2019:6./ 223p
978-4-06-220928-1
本体 ¥2,700+税



私とは何か～「個人」から「分人」へ～(講談社現代新書 2172)

平野 啓一郎 著
講談社

たった一つの「本当の自分」など存在しない。対人関係ごとに見せる複数の顔が、すべて「本当の自分」である。個人よりも一回り小さな単位「分人」を提案し、人間の基本単位を考え直す。

読売新聞 2019/07/14

2012:9./ 189p
978-4-06-288172-2
本体 ¥740+税



脱出老人～フィリピン移住に最後の人生を賭ける日本人たち～(小学館文庫 み 17-1)

水谷 竹秀 著
小学館

スラムで芋の葉を食べて妻子と暮らす元大手企業サラリーマン、認知症の母をメイドと介護する息子…。幸せな最期を求めて日本を脱出しフィリピンに移住した高齢者たちのルポルタージュ。

読売新聞 2019/07/14

2019:5./ 317p
978-4-09-406605-0
本体 ¥690+税





毎日が日曜日 改版(新潮文庫)

城山 三郎 著
新潮社
読売新聞 2019/07/14

2002:5./ 652p
978-4-10-113310-2
本体 ¥890+税



あなたの右手は蜂蜜の香り

片岡 翔 著
新潮社

あたしのせいで動物園に入れられた「あなた」を必ず救い出す。そう誓った日から、雨子はヒグマの飼育員になるため邁進するが…。大切なものを守り抜こうとする少女とクマとの、切なく温かな、究極の愛の物語。

2019:5./ 280p
978-4-10-352611-7
本体 ¥1,550+税



読売新聞 2019/07/14



決断〜会社辞めるか辞めないか〜(中公新書ラクレ 660)

成毛 眞 著
中央公論新社

会社どころか業界ごと消える時代。既に激変が起きているのがメディア業界だ。注目のメディア人はなぜ転職を「決断」した? 同僚や家族の反応は? 「目利き人」たちの世渡り術から、ミドルの転職の思考法を学ぶ。

2019:6./ 230p
978-4-12-150660-3
本体 ¥800+税



読売新聞 2019/07/14



「いいね!」戦争〜兵器化するソーシャルメディア〜

P.W.シンガー、エマーソン・T.ブルッキング、小林 由香利 著
NHK出版

政治や戦争のあり方を世界中で根底から変えた SNS。インターネットは新たな戦場と化し、情報は重要な兵器となった。軍事研究と SNS 研究の第一線で活躍する著者が、誰もが当事者になり得る新種の戦争の本質に迫る。

2019:6./ 444p
978-4-14-081779-7
本体 ¥2,400+税



読売新聞 2019/07/14



対岸の彼女(文春文庫)

角田 光代 著
文芸春秋

女社長の葵と専業主婦の小夜子。二人の出会いと友情は、些細なことから亀裂を生じていくが……。孤独から希望へ、感動の傑作長篇

2007:10./ 334p
978-4-16-767205-8
本体 ¥640+税



読売新聞 2019/07/14



夫が邪魔(徳間文庫 11-8)

新津 きよみ 著
徳間書店

夫への苛立ちが募る女性作家のもとに、家事を手伝いたいと熱望する奇妙なファンレターが届く。嫌いな女友達より、愛しい人を奪った女より、誰よりも憎いのは…夫かも。表題作を含む大人の極上ミステリー全7編を収録。

2019:6./ 316p
978-4-19-894475-9
本体 ¥670+税



読売新聞 2019/07/14



喪失学〜「ロス後」をどう生きるか?〜(光文社新書 1013)

坂口 幸弘 著
光文社

家族、友人、ペット、健康、時間、夢や希望、そして自分の命…。命ある限り生じる「喪失」といかに向き合っていくべきか。死生学や心理学の理論、当事者の声、グリーフケアの実践から、来るべき喪失に備える。ワークも収録。

2019/6./ 220p
978-4-334-04419-0
本体 ¥780+税



読売新聞 2019/07/14



あの日にドライブ(光文社文庫)

荻原 浩 著
光文社

読売新聞 2019/07/14

2009/4./ 350p
978-4-334-74582-0
本体 ¥619+税



育休刑事(デカ)〜My father is a detective〜

似鳥 鶏 著
幻冬舎

殺人現場に赤ちゃん臨場!? 県警捜査一課・秋月春風巡査部長は、生後 3 ヶ月になる息子・蓮くんのため、男性刑事としては初の“育休”に挑戦中。それでも事件は待つてくれなくて…。『小説幻冬』連載に書き下ろしを追加。

2019/5./ 299p
978-4-344-03465-5
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/07/14



美空ひばり恋し〜お嬢さんと私〜

関口 範子 著
主婦と生活社

結婚、アメリカ公演、一卵性母娘、弟の死、不死鳥コンサート…。美空ひばりの終生にわたる付き人が、「昭和の歌姫」との出会いと別れ、愛しき素顔を明かす。知られざるエピソードや秘蔵写真も満載。

2019/5./ 255p
978-4-391-15294-4
本体 ¥1,600+税



読売新聞 2019/07/14

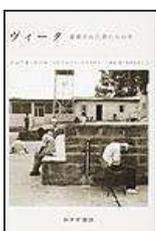


働きざかりの心理学(PHP 文庫)

河合隼雄 著
PHP研究所

読売新聞 2019/07/14

1984/11./ 242p
978-4-569-26021-1
本体 ¥400+税



ヴィータ〜遺棄された者たちの生〜

ジョアオ・ビール、トルベン・エスケロウ、桑島 薫、水野 友美子 著
みすず書房

行き場をなくした薬物依存症患者・精神病患者・高齢者が死を待つ、ブラジルの保護施設「ヴィータ」。そこで精神病とされていた女性と出会った人類学者が、彼女との人間的交流を通して、「人間」を選別する権力構造を解明する。

2019/3./ 640p,39p
978-4-622-08786-1
本体 ¥5,000+税



読売新聞 2019/07/14



心理学の7つの大罪～真の科学であるために私たちがすべきこと～

クリス・チェインバーズ 著
みすず書房

顕著な有意差のある研究結果への偏重、実験データの私物化、不正行為への脆さ...。イギリスの心理学者が、自らの研究者生活を通じて見えてきた、心理学の研究文化に根づく「7つの大罪」を暴き、心理学のあるべき未来を描く。

2019/4/ 6p,330p,40p
978-4-622-08788-5

本体 ¥4,400+税



読売新聞 2019/07/14



クラシック 100 の味～ウィーンの演奏は上手いより美味しい～

平野 玲音 著
彩流社

チェリストの両親のもと幼少からチェロを始め、現在はウィーン在住の著者。チェリストの立場で感じたウィーンの演奏ならではの特色を、オーストリアの音楽と食をテーマに綴った冊子『百味』連載のエッセイとともに紹介する。

2019/5/ 197p

978-4-7791-2580-5

本体 ¥1,900+税



読売新聞 2019/07/14



声優という生き方(イースト新書 Q Q058)

中尾 隆聖 著
イースト・プレス

若者の人気職業・声優。華やかさの陰には厳しい現実も待ち受けている。芸歴 60 年超のレジェンドが、「うまくやろうとするな」「売れるのが唯一の価値観か」など、成功法則のない業界だからこそ必要なスキルと心構えを語る。

2019/5/ 191p

978-4-7816-8058-3

本体 ¥840+税



読売新聞 2019/07/14



言葉の色彩と魔法

ラフィック・シャミ、ロート・レープ、松永 美穂 著
西村書店

子ども時代の回想、メルヘン仕立ての短編、民族のメンタリティを風刺的に書いたもの...。シリアからドイツに亡命した作家シャミが、哲学的なまなざしで人間の真理をえがいた 59 編を収録。

2019/5/ 167p

978-4-89013-998-9

本体 ¥2,600+税



読売新聞 2019/07/14



展覧会の挨拶

酒井 忠康 著
生活の友社

美術館の館長が展覧会によせる想いとほ。神奈川県立近代美術館(鎌倉・葉山)、そして現在館長を務める世田谷美術館-3つの美術館の展覧会図録に寄稿した挨拶文から自選した42篇を収録。

2019/4/ 330p

978-4-908429-22-4

本体 ¥3,500+税



読売新聞 2019/07/14



パリのガイドブックで東京の町を闊歩する<1> まだ歩きださない

友田 とん 著
代わりに読む人

フレンチトーストを求めて、喫茶スペースのある本屋に通ったり、神保町にあるカレー屋を探したり...。東京のガイドブックには頼らず、パリのガイドブックを読んで、東京を歩いた日々を綴る。

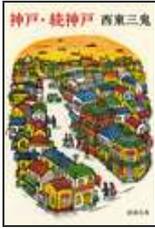
2019/4/ 46p

978-4-9910743-1-8

本体 ¥700+税



読売新聞 2019/07/14



神戸・続神戸(新潮文庫 さ-90-1)

西東 三鬼 著
新潮社

第二次大戦下、神戸トアロードの奇妙なホテル。“東京の何もかも”から脱走した私はここに滞在した。エジプト人、白系ロシア人など、外国人が居据わり、死と隣合わせながらも祝祭的だった日々…。

2019:7./ 191p
978-4-10-101451-7
本体 ¥430+税



読売新聞 2019/07/14、朝日新聞 2019/07/27



国際刑事裁判の政治学～平和と正義をめぐるディレンマ～

下谷内 奈緒 著
岩波書店

国際刑事裁判は紛争の平和的解決を阻害するのか。国際刑事裁判の法規範を考察し、紛争当事者に対する国際刑事訴追を政治学的に分析。平和と正義をめぐるディレンマの政治構造を、理論的考察と事例研究を通じて解き明かす。

2019:5./ 9p,184p,68p
978-4-00-022965-4
本体 ¥5,400+税



読売新聞 2019/07/21



老女マノン・脂粉の顔～他四篇～(岩波文庫 31-222-2)

宇野 千代、尾形 明子 編
宇野 千代 著
岩波書店

全集未収録作品を含む、社会派的視点も鮮やかな、宇野千代の知られざる初期作品群。父の暴力、幼すぎた不幸な結婚、代用教員時代に見た社会の不正義など、自らの生い立ちを主たるモチーフとした中短篇全 6 篇を収録。

2019:6./ 327p
978-4-00-312222-8
本体 ¥740+税



読売新聞 2019/07/21



古琉球～海洋アジアの輝ける王国～(角川選書 616)

村井 章介 著
KADOKAWA

世界に開かれていたのは日本ではなく「琉球」だった！古琉球の時代の歴史と文化を、中国など近隣諸国に残る史料等から総合的に検証。同時代のアジア世界の歴史の在り方に境界史から光をあて、その全体像に新たな視角を拓く。

2019:3./ 413p
978-4-04-703579-9
本体 ¥2,200+税



読売新聞 2019/07/21



1793

ニクラス・ナット・オ・ダーグ、ヘレンハルメ美穂 著
小学館

1793 年秋。貧しく汚く腐敗したストックホルムの湖で、惨殺死体が見つかった。戦場帰りの荒くれ者と結核に冒されたインテリ法律家が、殺人事件の謎を追う…。スリリングで濃密な、スウェーデン発大型歴史ミステリー。

2019:6./ 428p
978-4-09-356719-0
本体 ¥2,000+税



読売新聞 2019/07/21



カレーライスはどこから来たのか(小学館文庫 み 13-2)

水野 仁輔 著
小学館

会社を辞め家族を残して、カレーライスのルーツを探る旅に出たカレー研究家の著者。4 年をかけ、インド、イギリス、ドイツ、アイルランドで悪戦苦闘しながら、150 年前の 1 皿を探す旅を綴る。

2019:6./ 333p
978-4-09-406648-7
本体 ¥750+税



読売新聞 2019/07/21



神様のポート(新潮文庫)

江國 香織 著
新潮社
読売新聞 2019/07/21

2002:6./ 286p
978-4-10-133919-1
本体 ¥520+税



はいこちら子ども記者相談室デス!

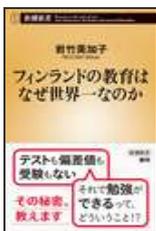
かめおか子ども新聞、ヨシタケ シンスケ 著
新潮社

子どもが書いて大人が読む月刊紙『かめおか子ども新聞』の相談コーナーをまとめた本。「夫婦の「愛」ってなんでしょう」「不景気、災害多発...将来が不安です」といった大人の悩みを、子ども記者がズバツと解決する。

2019:5./ 127p
978-4-10-352631-5
本体 ¥1,000+税



読売新聞 2019/07/21



フィンランドの教育はなぜ世界一なのか(新潮新書 817)

岩竹 美加子 著
新潮社

世界一の教育と注目され、幸福度も世界一となったフィンランド。小学校から大学まで無償、シンプルで合理的な制度、人生観を育む独特の授業など、フィンランドの教育の現状を実体験に基づいてレポートする。

2019:6./ 233p
978-4-10-610817-4
本体 ¥780+税



読売新聞 2019/07/21



都市伝説セピア

朱川 湊人 著
文芸春秋

都市伝説に憑かれ、自らその主人公になろうとする男の狂気を描く、オール読物推理小説新人賞受賞作「フクロウ男」ほか、病む心の妖しさ哀しさを描くホラー短篇全 5 篇を収録。

2003:9./ 256p
978-4-16-322210-3
本体 ¥1,571+税



読売新聞 2019/07/21



自由思考

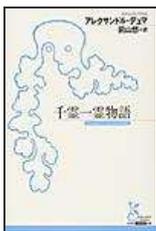
中村 文則 著
河出書房新社

2002?2019 年に様々な媒体で綴ったエッセイを集成。ユーモア溢れる日常のものからシリアスなもの、物語の誕生秘話から文学論、政治思想まで、全 111 編を収録する。「この国の「空気」」など書き下ろしも掲載。

2019:7./ 292p
978-4-309-02814-9
本体 ¥1,400+税



読売新聞 2019/07/21



千霊一霊物語(光文社古典新訳文庫 KA テ 6-1)

アレクサンドル・デュマ 著
光文社

「女房を殺した」と市長宅に押しかけた男。その場に居合わせた作家デュマや市長たちは、彼の自宅を見に行くことに。その自供の妥当性をめぐる議論は、いつしか各人が見聞きした奇怪な出来事を披露しあう夜へと発展し...

2019:5./ 403p
978-4-334-75400-6
本体 ¥1,020+税



読売新聞 2019/07/21



東京古民家カフェ日和～時間を旅する 40 軒～

川口 葉子 著
世界文化社

東京の路地裏で懐かしい空間に出会える。東京の築 50 年以上の古民家と、そこにカフェとしての新たな生命を吹き込んだ店主の物語を豊富な写真と共に紹介する。MAP、店舗ごとのメニューも掲載。データ:2019 年 2 月現在。

2019/3./ 143p
978-4-418-19209-0
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/07/21



一人盆踊り(ちくま文庫 と 29-1)

友川 カズキ 著
筑摩書房

徒党を組まず、何者にもおもねらず、孤絶と背中あわせの自由を生きる歌手・友川カズキ。詩人・画家・俳優・競輪愛好家の顔ももつ男が、狂気と諧謔に満ちた独特の表現で綴った随筆と詩篇を精選して採録する。

2019/6./ 351p
978-4-480-43584-2
本体 ¥820+税



読売新聞 2019/07/21



平成の新語・流行語辞典

米川 明彦 著
東京堂出版

平成元年から 31 年までの間に生まれた新語と流行語、約 1400 語を年ごとにまとめ、初出や造語者の情報、使用例などを交えて詳しく解説する。各年の冒頭にその年のできごとや、ヒットした商品・音楽・映画等も掲載。

2019/7./ 678p
978-4-490-10910-8
本体 ¥5,800+税



読売新聞 2019/07/21



遺産の概念(叢書・ユニベルシタス 1096)

ジャン=ピエール・バブロン、アンドレ・シャステル 著
法政大学出版局

世界遺産、人類の遺産、文化遺産/文化財に含まれる「遺産」とは何か。遺産=文化財を守る、保存や修復には何が重要か。歴史的資料とともに、ノートル=ダムといった具体的な事例も紹介し、簡潔にして決定的に論じる。

2019/6./ 6p,216p
978-4-588-01096-5
本体 ¥2,800+税



読売新聞 2019/07/21



日本のイネ品種考～木簡から DNA まで～

佐藤 洋一郎 編
臨川書店

イネの品種の栄枯盛衰はどのように繰り返されてきたのか。それは私たちの文化・社会にいかなる影響を及ぼしたのか。考古学、自然科学、料理人それぞれの視点から、イネと米の来し方、行く末を展望する。

2019/5./ 260p
978-4-653-04414-7
本体 ¥4,500+税



読売新聞 2019/07/21



運命論を哲学する(現代哲学ラボ・シリーズ 第 1 巻)

入不二 基義、森岡 正博 著
明石書店

運命とは何か? 運命と現実の関係は? 入不二基義の主著「あるようにあり、なるようになる」での議論を入口に、「運命論」と「現実性」を徹底的に掘り下げる。連続討論会企画「現代哲学ラボ」の講義を再編集し書籍化。

2019/4./ 3p,295p
978-4-7503-4826-1
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/07/21



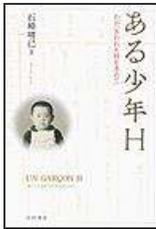
「国語」から旅立って(よりみちパン!セ YP07)

温 又柔 著
新曜社

母国語とアイデンティティ、歴史と境界線…。台湾生まれで「中国語がへたくそ」な日本語作家が、ことばを知り、文字を読み、文章を書く個人的な日々を綴る。

読売新聞 2019/07/21

2019.5./ 259p
978-4-7885-1611-3
本体 ¥1,300+税



ある少年 H～わが「失われた時を求めて」～

石崎 晴己 著
吉田書店

戦時中、信州上田に疎開していた時代から、日本最初のテレビ少年世代の一員となるまで。サルトルや E・トッドの研究で知られるフランス文学者が、昭和の子供時代をありのままに語る。雑誌『飛火』掲載を書籍化。

読売新聞 2019/07/21

2019.6./ 6p,263p
978-4-905497-75-2
本体 ¥1,800+税



AFTER THE GONG～「今」を生きるアマチュアボクサーたちの肖像～

高尾 啓介、『AFTER THE GONG』編集委員会 編
高尾 啓介 著
忘羊社

金も名声も求めず、がむしゃらに挑んだボクシングの日々。拳を交えた強敵も、今はかけがえのない友となった…。37年にわたってアマチュアボクサーたちの人生を追いつづけた写真家の、ライフワークの結晶。

読売新聞 2019/07/21

2019.5./ 167p
978-4-907902-21-6
本体 ¥3,000+税



アニメーション、折りにふれて(岩波現代文庫 文芸 309)

高畑 勲 著
岩波書店

初期作品から「かぐや姫の物語」までの自らの仕事や、影響を受けた人々や作品、苦楽をともにした仲間達について縦横に語り、綴る。アニメーション界に偉大な足跡を残した高畑監督の人間像に幅広く迫る、生前最後のエッセイ集。

読売新聞 2019/07/28

2019.7./ 6p,429p
978-4-00-602309-6
本体 ¥900+税



水辺のブッダ

ドリアン助川 著
小学館

川辺で生きるホームレスの望太と、都会の闇に溺れゆく孤独な少女・絵里。絶望と希望。死とエロス…。世の中の片隅で懸命に生きるふたりの、人生の再構築を描いた長篇小说。『本の窓』連載を書籍化。

読売新聞 2019/07/28

2019.5./ 317p
978-4-09-386541-8
本体 ¥1,600+税



世界地図を読み直す～協力と均衡の地政学～(新潮選書)

北岡 伸一 著
新潮社

大国の周辺国から国際秩序を見直せば、まったく新しい「世界地図」が立ち上がる。歴史と地理に精通した政治外交史家が、国際協力と勢力均衡の最前線で「21世紀の地政学」を考える。

読売新聞 2019/07/28

2019.5./ 251p
978-4-10-603840-2
本体 ¥1,300+税





イメージ学の現在～ヴァールブルクから神経系イメージ学へ～

竹峰 義和 編
東京大学出版会

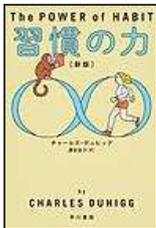
ドイツ語圏を中心としたイメージ学の現在を、この分野のパイオニアや新進気鋭の研究者たちの論考およびインタビューによって一望するとともに、比較美術史からメディア論にいたる日本の論者たちの論文を集成して編まれた論集。

2019:4./ 4p,542p,15p
978-4-13-010140-0

本体 ¥8,400+税



読売新聞 2019/07/28



習慣の力 新版(ハヤカワ文庫 NF 542)

チャールズ・デュヒッグ、渡会 圭子 著
早川書房

良い習慣を身につけ、悪い習慣を断ち切れば人生を変えることさえできる。習慣のメカニズムや習慣を変えるための鉄則、成功する企業の習慣、社会の習慣など、「習慣の力」を科学的に解明し、続けるための極意を説く。

2019:7./ 422p

978-4-15-050542-4

本体 ¥1,020+税



読売新聞 2019/07/28



蹴りたい背中(河出文庫)

綿矢 りさ 著
河出書房新社

ハツとにな川はクラスの余り者同士。ある日ハツは、オリチャンというモデルのファンである彼の部屋に招待されるが.....文学史上の事件となった 127 万部のベストセラー、史上最年少 19 歳での芥川賞受賞作。

2007:4./ 183p

978-4-309-40841-5

本体 ¥380+税



読売新聞 2019/07/28



「家族の幸せ」の経済学～データ分析でわかった結婚、出産、子育ての真実～(光文社新書 1015)

山口 慎太郎 著
光文社

「赤ちゃんには母乳が一番」「3 歳までは母親がつきっきりで子育てすべき」は間違い！出産や子育てにおいて幅をきかせる科学的根拠を一切無視した「思い込み」を、気鋭の学者が最先端の経済学的手法で徹底的に論破する。

2019:7./ 259p

978-4-334-04422-0

本体 ¥820+税



読売新聞 2019/07/28



渋沢栄一～「日本近代資本主義の父」の生涯～(幻冬舎新書 い-34-1)

今井 博昭 著
幻冬舎

豪農に生まれ、25 歳で一橋家に仕え、幕臣として近代ヨーロッパの列強を見聞し、大蔵省官僚、実業家となった「日本近代資本主義の父」渋沢栄一。彼の人生を転換させた人々との人間模様を見つめながら若き日の生きようを追う。

2019:6./ 257p

978-4-344-98562-9

本体 ¥840+税



読売新聞 2019/07/28



世界文学アンソロジー～いまからはじめる～

秋草俊一郎、戸塚学 編
三省堂

アフリカ文学の父チヌア・アチェベ、フランスの女性作家コレットの本邦初訳短編を含む、世界各地の文学作品全 27 編を収録。さらに多くの作品に親しむためのブックガイド、コラムなども収録。

2019:7./ 361p

978-4-385-36235-9

本体 ¥2,200+税



読売新聞 2019/07/28



大坊珈琲店のマニュアル

大坊 勝次 著
誠文堂新光社

珈琲屋になるまで、営業時の心掛け、焙煎・抽出・テイस्टイングの仕方、キムホノ、平野遼...。コーヒー好きに愛されながら 2013 年に閉店した大坊珈琲店の店主が、38 年の営みを振り返り、大切にしてきたことを綴る。

2019/5./ 251p
978-4-416-51773-4
本体 ¥2,800+税



読売新聞 2019/07/28



物語は人生を救うのか(ちくまプリマー新書 326)

千野 帽子 著
筑摩書房

人生はままたらないもの。それを引き受け、困難を乗り越えるためには物語が必要だ。私たちの周りにあふれている物語とは何かを考える。「人はなぜ物語を求めるのか」につながる本。『web ちくま』連載を加筆修正。

2019/5./ 217p
978-4-480-68351-9
本体 ¥840+税



読売新聞 2019/07/28



日本婚活思想史序説～戦後日本の「幸せになりたい」～

佐藤 信 著
東洋経済新報社

2000 年代末に生じた婚活ブーム、いわば「婚活 1.0」に先駆けて存在した 1980 年代の結婚論ブームを「婚活 0.0」と呼んで、結婚への視線や婚活の論理がどのように変化してきたのか、その潮流を読み解く。

2019/5./ 13p,278p
978-4-492-22368-0
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/07/28



名作で楽しむ上高地(ヤマケイ文庫)

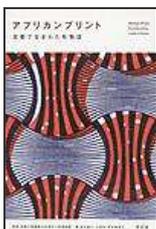
大森 久雄 編
山と溪谷社

数多くの登山家や文学者に愛された上高地。「小梨の花咲く上高地」「日本アルプスの登山と探検(抄)」など、いままで知らなかった上高地が見えてくる紀行・エッセーの名作と登山史、全 25 篇を収録する。

2019/6./ 365p
978-4-635-04866-8
本体 ¥1,000+税



読売新聞 2019/07/28



アフリカンプリント～京都で生まれた布物語～

京都工芸繊維大学美術工芸資料館、並木 誠士、上田 文、青木 美保子 著
青幻舎

1950?60 年代の京都で大量生産され輸出されていたアフリカンプリント。その生産秘話や、大手染工会社・大同マルタ染工が現地で手に入れたプリント見本、生産したプリントなどを、豊富なカラー図版とともに紹介する。

2019/5./ 167p
978-4-86152-729-6
本体 ¥2,500+税



読売新聞 2019/07/28



日本統治下の朝鮮シネマ群像～戦争と近代の同時代史～

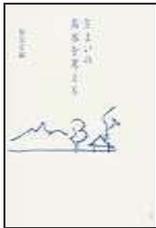
下川 正晴 著
弦書房

映画監督・今井正や崔寅奎、女優・原節子...。あの時代、彼らは何を考え、どう行動したのか。1930?1940 年代、日本統治下の国策映画と日朝映画人の個人史をもとに、植民地朝鮮の真相を探求する。

2019/5./ 325p
978-4-86329-188-1
本体 ¥2,200+税



読売新聞 2019/07/28



住まいの基本を考える

堀部 安嗣 著
新潮社

本当の居心地の良さとは。住宅建築の名手が、情緒と機能性を兼ね備えた普遍的な住まいのかたちを、近作 8 軒の写真や図面とともに、あらためて探る。『波』連載を加筆し書籍化。

2019:4./ 125p
978-4-10-335292-1
本体 ¥2,400+税



読売新聞 2019/07/28、毎日新聞 2019/07/28



夏物語

川上 未映子 著
文藝春秋

パートナーなしの妊娠・出産を目指す夏子。彼女のまえに、精子提供で生まれ「父の顔」を知らない潤が現れ…。芥川賞受賞作「乳と卵」の登場人物たちが新たに織りなす物語。『文學界』掲載を単行本化。

2019:7./ 545p
978-4-16-391054-3
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/07/28、毎日新聞 2019/07/28



サイバー完全兵器～世界の覇権が～一気に変わる～

デービッド・サンガー、高取 芳彦 著
朝日新聞出版

世界にとって最大の脅威、サイバー兵器。この完全兵器はインフラを壊滅させ、各国間の疑念を簡単に増幅させる。トランプ大統領や米閣僚などキーパーソンの発言をあげながら、サイバー戦がもたらす世界危機を警告する。

2019:5./ 475p,30p
978-4-02-251609-1
本体 ¥2,300+税



日本経済新聞 2019/07/06



インフラグラム～映像文明の新世紀～(講談社選書メチエ 702)

港 千尋 著
講談社

写真の誕生から 180 年。スマートフォンから戦争まで、「光による描画」の技術は情報社会を動かすインフラとなった。ヒトは何を見て、何に見つめられ、何を見ていないのか。5G 時代の映像論を眼差しの歴史として考える。

2019:5./ 253p
978-4-06-516217-0
本体 ¥1,700+税



日本経済新聞 2019/07/06



反古典の政治経済学<上> 進歩史観の黄昏

村上 泰亮 著
中央公論新社

日本経済新聞 2019/07/06

2000:4./ 364p
978-4-12-002136-7
本体 ¥2,400+税



利己的な遺伝子 40周年記念版

リチャード・ドーキンス、日高 敏隆 著
紀伊國屋書店出版部

全ての生物は、遺伝子を運ぶための生存機械だ。動物や人間の社会で見られる親子間の対立やなわばり行動などがなぜ進化したかを遺伝子の視点から解明する。現代自然科学の古典的名著。「40周年記念版へのあとがき」を追加。

2018:2./ 581p
978-4-314-01153-2
本体 ¥2,700+税



日本経済新聞 2019/07/06



教養のすすめ～明治の知の巨人に学ぶ～

岡崎 久彦 著
青春出版社

100年前、歴史を変えた本物の教養があった!福沢諭吉、西郷隆盛、勝海舟、陸奥宗光、安岡正篤、一人一人の人生と人物像に迫り、知の巨人たちの教養を学ぶ。

日本経済新聞 2019/07/06

2005:6./ 223p
978-4-413-03535-4
本体 ¥1,400+税



裏切られた美術～表現者たちの転向と挫折 1910-1960～

足立 元 著
ブリュッケ

戦前から戦後にかけての 50 年間における、美術・漫画・記録映画と社会運動の危険な交わり。美術を中心に、漫画、映画、アニメーションなどを研究する著者が、2008?2018 年に書いた文章をまとめる。

日本経済新聞 2019/07/06

2019:6./ 318p
978-4-434-26069-8
本体 ¥3,600+税



人と企業はどこで間違えるのか?～成功と失敗の本質を探る「10 の物語」～

ジョン・ブルックス、須川 綾子 著
ダイヤモンド社

著名企業の経営者、ウォール街のブローカー、功成り名遂げたビジネスマン…。彼らはその人生やビジネスにおいて、どこで間違えたのか? その失敗の原因となった「人間の本質的な部分」も、ブルックスが深く鮮やかに洞察する。

日本経済新聞 2019/07/06

2014:12./ 363p
978-4-478-02977-0
本体 ¥1,800+税



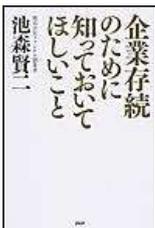
戦前・戦時期の金融市場～1940 年代化する国債・株式マーケット～

平山 賢一 著
日本経済新聞出版社

戦前・戦時期の国債及び株式市場のパフォーマンスインデックス算出を通して、金融市場の構造と市場参加者の行動の関係について探求。特に価格統制や資金統制が反映された金融構造が、市場参加者の行動に与えた影響を考察する。

日本経済新聞 2019/07/06

2019:4./ 273p
978-4-532-13493-8
本体 ¥3,800+税



企業存続のために知っておきたいこと

池森 賢二 著
PHP研究所

社会人・企業人としての心得、問題解決力や発想力の鍛え方、マーケティングの考え方、逆境に打ち克つ方法…。業績悪化から V 字回復を成し遂げるまでの、社員へのメッセージ。ファンケル社内報『はあもにい』掲載を書籍化。

日本経済新聞 2019/07/06

2019:6./ 429p
978-4-569-84502-9
本体 ¥1,600+税



思い邪なし～京セラ創業者稲盛和夫～

北 康利 著
毎日新聞出版

京セラ創業・第二電電設立・JAL 再生と超人的な手腕を発揮した新・経営の神様、稲盛和夫。その半生を、大物経営者と向き合ってきた作家・北康利が、本人へのロングインタビューや関係者への周辺取材を通じて克明に描き出す。

日本経済新聞 2019/07/06

2019:4./ 548p
978-4-620-32425-8
本体 ¥2,200+税





私のイラストレーション史～1960-1980～

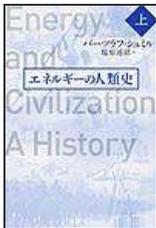
南 伸坊 著
亜紀書房

あの頃、イラストレーションという言葉には魔法がかかっていた。小 6 から『ガロ』編集長時代まで、南伸坊が 1960?1980 年に目撃した日本のイラストレーション史を綴った、自伝エッセイ。『あき地』連載に加筆修正。

2019.5./ 284p
978-4-7505-1578-6
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2019/07/06



エネルギーの人類史<上>

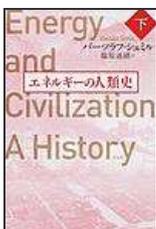
バーツラフ・シュミル、塩原 通緒 著
青土社

狩猟採集社会、伝統農業の限界、産業化以前の原動力、輸送と建築、戦争…。先史時代から現代まで、人類とエネルギーとの長いかわりを、さまざまな学問分野を横断しながら包括的に論じる。

2019.3./ 376p
978-4-7917-7153-0
本体 ¥3,200+税



日本経済新聞 2019/07/06



エネルギーの人類史<下>

バーツラフ・シュミル、塩原 通緒 著
青土社

石炭採掘の始まりと広まり、石油と内燃機関、経済成長、エネルギー説明の限界…。先史時代から現代まで、人類とエネルギーとの長いかわりを、さまざまな学問分野を横断しながら包括的に論じる。

2019.3./ 433p,18p
978-4-7917-7154-7
本体 ¥3,200+税



日本経済新聞 2019/07/06



カメラはじめます!

こいし ゆうか 著
サンクチュアリ・パブリッシング(サンクチュアリ出版)

カメラ選びのポイントから、知っているだけでセンスいいねと言われる写真のコツ、デジタル一眼カメラでしか撮れない世界、ステキな写真のつくり方まで、デジタル一眼カメラの使い方をマンガでわかりやすく解説します。

2018.1./ 157p
978-4-8014-0047-4
本体 ¥1,200+税



日本経済新聞 2019/07/06



木々は歌う～植物・微生物・人の関係性で解く森の生態学～

D.G.ハスケル、屋代 通子 著
築地書館

エクアドルのセイボ、スコットランドのハシバミ、エルサレムのオリーブ、宮島のゴヨウマツ…。世界の 12 本の木と、木を取り巻く自然のネットワーク、人間社会との関係性を、緻密で科学的な観察で描き出す。

2019.5./ 360p
978-4-8067-1581-8
本体 ¥2,700+税



日本経済新聞 2019/07/06



女たちの声

工藤 庸子 著
羽鳥書店

女性の主宰するサロンで「語られる言葉」、そこで醸成される「社会的なもの」をアクチュアリティと関連させながら考察する。「政治に口出しする女はお嫌いですか?」とペアをなす書。羽鳥書店ウェブサイト連載をもとに書籍化。

2019.6./ 191p
978-4-904702-77-2
本体 ¥2,400+税



日本経済新聞 2019/07/06



黒澤明の羅生門～フィルムに籠めた告白と鎮魂～

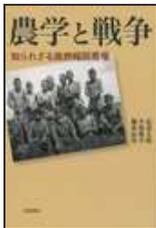
ポール・アンドラ、北村 匡平 著
新潮社

ヴェネツィアとアカデミー賞を制し、「世界のクロサワ」を決定付けた「羅生門」。そのストーリーと演出、セットには監督の悲痛な肉声が重層的に刻まれていた。コロンビア大学教授による画期的なクロサワ論。

2019/5./ 301p
978-4-10-507111-0
本体 ¥2,500+税



日本経済新聞 2019/07/06、朝日新聞 2019/07/20



農学と戦争～知られざる満洲報国農場～

足達 太郎、小塩 海平、藤原 辰史 著
岩波書店

戦争末期に遂行された国策、満洲報国農場。戦時には 70 近くもの農場が存在したが、東京農業大学の実習生や多くの若者たちが辛酸を嘗め、死へと追いこまれた。農学が、大学が、棄民に加担した事実迫る。

2019/4./ 9p,256p
978-4-00-001826-5
本体 ¥2,500+税



日本経済新聞 2019/07/06、朝日新聞 2019/07/27



仮想通貨 3.0

マルク・カルプレス 著
講談社

ビットコインはどうなるのか？ 上がるのか、下がるのか？ 知っておくべきリスクとは？ 黎明期からビットコインに携わってきた著者が、その正しい歴史と現状、未来を伝える。

2019/5./ 219p
978-4-06-515038-2
本体 ¥1,500+税



日本経済新聞 2019/07/13



栗本薫と中島梓～世界最長の物語を書いた人～

里中 高志 著
早川書房

栗本薫と中島梓、2 つの名前を持ち、世界最長の物語をはじめ、生涯に 400 冊以上の著作を書き上げた稀有な創造力の持ち主は、いかに生まれ、どのような生涯をたどったか？ 関係者への取材と著作から検証する。

2019/5./ 387p
978-4-15-209865-8
本体 ¥1,900+税



日本経済新聞 2019/07/13



百花

川村 元気 著
文藝春秋

認知症と診断され、徐々に息子を忘れていく母と、母との思い出を蘇らせていく息子。ふたりには忘れることのできない“事件”があった。現代に新たな光を投げかける、愛と記憶の物語。『文藝春秋』連載を単行本化。

2019/5./ 299p
978-4-16-391003-1
本体 ¥1,500+税



日本経済新聞 2019/07/13



『罪と罰』を読まない(文春文庫 み 36-50)

岸本 佐知子、三浦 しをん、吉田 篤弘、吉田 浩美 著
文藝春秋

ドストエフスキーの「罪と罰」を読んだことがない 4 人が、果敢かつ無謀に挑んだ“読まない”読書会。僅かな手がかりから内容を推理、その後みっちり読んでから朗らかに語り合う。

2019/7./ 312p
978-4-16-791320-5
本体 ¥700+税



日本経済新聞 2019/07/13



アメリカの政治

西山 隆行 編
弘文堂

ますます先行きの見えない<分極化>時代のアメリカ政治をどのように捉えるのか。人種とエスニシティ、移民、ジェンダーとセクシュアリティ、教育と格差、財政と金融など、主要争点からアメリカ政治の“いま”をあぶり出す。

日本経済新聞 2019/07/13

2019:5./ 10p,317p
978-4-335-46039-5
本体 ¥2,600+税



武器としての世論調査～社会をとらえ、未来を変える～(ちくま新書 1414)

三春 充希 著
筑摩書房

内閣支持率が高い地域では宗教信仰率が高い、野党支持は若年層で伸び悩み…。世論調査をもとに、どの地域に住む、どんな人が、どの政党を支持しているのかに迫るとともに、彼らに働きかけ、この社会を変える方法を考える。

日本経済新聞 2019/07/13

2019:6./ 254p 図版
16p
978-4-480-07221-4

本体 ¥1,000+税



天皇が東京にやって来た!～錦絵解析～

奈倉 哲三 著
東京堂出版

東京に新たな権威として立ち現れた天皇と、迎える民衆について、蒐集した原文書のうえに東幸錦絵を載せて解析。板元・絵師らを含めた江戸・東京市民の激変する生活実態を、リアルに把握・提示する。

日本経済新聞 2019/07/13

2019:5./ 223p
978-4-490-21009-5
本体 ¥2,800+税



「追われる国」の経済学～ポスト・グローバリズムの処方箋～

リチャード・クー、川島 睦保 著
東洋経済新報社

過去に大きな効果を発揮した政策が、現在はどうして効かなくなったのか。バランスシート問題が引き起こした借り手不足、「追われる国」のマクロ経済政策などを論じ、停滞する世界を救う新しい経済理論を示す。

日本経済新聞 2019/07/13

2019:4./ 7p,617p,12p
978-4-492-44451-1
本体 ¥2,800+税



5G ビジネス(日経文庫 1407)

亀井 卓也 著
日本経済新聞出版社

コンテンツ業界をはじめ、モビリティ、キャッシュレス決済、製造現場、医療、エネルギー産業など、5G が広げるビジネスの可能性をわかりやすく解説する。国内外の最新情報も満載。

日本経済新聞 2019/07/13

2019:6./ 253p
978-4-532-11407-7
本体 ¥860+税



イヤなやつほど仕事ができる～なぜルールに従わない人が成功するのか～

フランチェスカ・ジノ、櫻井 祐子 著
日本経済新聞出版社

新しいビジネスを興した強力なリーダーは、会社の中でルールを破る「反逆者」となり、枠からはみ出すことで成功した。どうしたら反逆の才能を伸ばすことができるのか。自分らしく働きながら成功を手に入れる 8 原則を解説する。

日本経済新聞 2019/07/13

2019:4./ 322p
978-4-532-32267-0
本体 ¥1,800+税





世界の書店を旅する

ホルヘ・カリオン、野中 邦子 著
白水社

世界最古の書店、最も美しい書店、世界一大きな書店…。さまざまな書店を求めて世界各地を旅し、その地にある書店を見て歩いた著者が、書店をめぐる歴史や存在意義、危機に瀕している現状、未来像などについて考察する。

2019/6./ 309p,31p
978-4-560-09693-2
本体 ¥3,200+税



日本経済新聞 2019/07/13



犬からみた人類史

池田 光穂 編
勉誠出版

人は最も身近なパートナーである犬と、どのようにして関係を築いてきたのか。犬の視点から人類史を捉え直し、進化生物学、文化人類学、民俗学、狩猟など様々な分野から、多様で複雑な人と犬の関係を考察する。

2019/5./ 467p,8p
978-4-585-23070-0
本体 ¥3,800+税



日本経済新聞 2019/07/13



一九六四年東京オリンピックは何を生んだのか

石坂 友司、松林 秀樹 著
青弓社

高度経済成長と重ね合わせて、強烈なまでの成功神話として記憶される 1964 年の東京オリンピック。スポーツ界と都市という 2 つの柱から、神話の陰で今では語られない実態に迫り、そのインパクトを冷静に見定める。

2018/12./ 252p
978-4-7872-2080-6
本体 ¥2,800+税



日本経済新聞 2019/07/13



スポーツ哲学入門～オリンピック・レガシーのために～

島田 哲夫 著
論創社

スポーツとはなにか。スポーツといかににより善く関わるのか。「東京 2020 オリンピック」の“レガシー”計画を検証し、スポーツ全体の歴史とスポーツ概念の歴史を概観。あらたなスポーツ概念を仮説的に再提示する。

2018/7./ 11p,215p
978-4-8460-1736-1
本体 ¥1,500+税



日本経済新聞 2019/07/13



奄美生活誌

恵原 義盛 著
南方新社

明治末期に生まれた奄美民俗研究家・恵原義盛。消え去りゆく奄美の古俗を後世に伝えるべく、大正・昭和にかけて、著者自ら古老を訪ね、衣食住から芸能、祭礼にいたるまで幅広く記録にとどめた名著を復刻。

2009/12./ 441p
978-4-86124-174-1
本体 ¥5,800+税



日本経済新聞 2019/07/13



世界を獲るノート～アスリートのインテリジェンス～

島沢 優子 著
カンゼン

伊藤美誠(卓球)、朝比奈沙羅(柔道)…。世界を目指す選手と指導者は何を書き、何を考えているのか? 成功者たちの共通項とは? 言葉とパフォーマンスの因果関係を、専門家たちの解説で解き明かす。

2019/3./ 221p
978-4-86255-498-7
本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/07/13



アフター1964 東京オリンピック～レポート:東京五輪の後、日本とスポーツはどう変わったか～

カルロス矢吹 著
サイン

1964年東京五輪は“美しい”大会だったのか？ 出場したオリンピック選手及び関係者に取材し、東京五輪とは一体何だったのか、その後の日本とスポーツはどう変わったかに迫る。『サイン』連載に加筆・修正・再編し単行本化。

日本経済新聞 2019/07/13

2019:1./ 343p
978-4-86625-108-0
本体 ¥1,600+税



序列を超えて。～ラグビーワールドカップ全史 1987-2015～(鉄筆文庫 ふ 1-2)

藤島 大 著
鉄筆

ラグビーはハート。そしてときどきビール。これまでに行なわれたラグビーワールドカップ全8大会を現地取材してきた著者が、世界のラグビーの潮流、ジャパンの変遷、開催国の文化・人間・ビールを通して、大会の魅力を綴る。

日本経済新聞 2019/07/13

2019:6./ 364p
978-4-907580-20-9
本体 ¥960+税



マキアヴェッリ～『君主論』をよむ～(岩波新書 新赤版 1779)

鹿子生 浩輝 著
岩波書店

祖国と家族、自由と人間を愛したマキアヴェッリが、真に伝えたかったこととはいったい何だったのか。『君主論』を中心に、マキアヴェッリの実際の政治思想を明らかにする。

日本経済新聞 2019/07/13、朝日新聞 2019/07/20

2019:5./ 13p,253p
978-4-00-431779-1
本体 ¥860+税



日米地位協定～在日米軍と「同盟」の70年～(中公新書 2543)

山本 章子 著
中央公論新社

在日米軍の基地使用、行動範囲、米軍関係者の権利などを保証した日米地位協定。“過剰な優遇”の根源とは。実際の運用が非公開の「合意議事録」に基づいてきた事実など、日本が置かれている「地位」の実態を描く。

日本経済新聞 2019/07/13、東京・中日新聞 2019/07/14

2019:5./ 7p,256p
978-4-12-102543-2
本体 ¥840+税



日本の天井～時代を変えた「第一号」の女たち～

石井 妙子 著
KADOKAWA

彼女たちは、偏見と迷信を破り続けた。女性初の一部上場企業役員となった石原一子、エベレスト登頂を成し遂げた登山家・田部井淳子…。道なき道を進んだ7名の女性の軌跡を描く。『文藝春秋』掲載を基に再取材を行い書籍化。

日本経済新聞 2019/07/20

2019:6./ 316p
978-4-04-105930-2
本体 ¥1,600+税



地獄めぐり(講談社現代新書 2527)

加須屋 誠 著
講談社

なぜ私たちは「地獄」に惹きつけられ、魅了されるのか。古代から近代までの、「地獄」を描いた作品を考察し、その理由を具体的かつ実証的に解き明かす。豊富な図版、地獄から生還した人たちの“証言”も収録。

日本経済新聞 2019/07/20

2019:6./ 230p
978-4-06-516147-0
本体 ¥1,000+税





戦後と私・神話の克服(中公文庫 え 3-2)

江藤 淳 著
中央公論新社

戦後の「正義」に抗い、自身の「私情」に忠実であることを表明した「戦後と私」、三島由紀夫らを論じた卓越した批評「神話の克服」。「私」三部作ほか、敗戦による喪失感と悲しみを文学へと昇華した批評・随想集。

日本経済新聞 2019/07/20

2019.5./ 306p
978-4-12-206732-5
本体 ¥1,000+税



ねじまき少女<上>(ハヤカワ文庫 SF 1809)

パオロ・バチガルピ 著
早川書房

日本経済新聞 2019/07/20

2011.5./ 391p
978-4-15-011809-9
本体 ¥840+税



140字の戦争～SNSが戦場を変えた～

デイヴィッド・パトリカラコス、江口 泰子 著
早川書房

イスラエルによるガザ侵攻の惨禍を Twitter で実況したパレスチナの少女、Facebook を駆使してデモ隊を組織するウクライナの活動家…。SNS が紛争地帯にもたらした光と闇をレポートする。安田純平の解説付き。

日本経済新聞 2019/07/20

2019.5./ 370p
978-4-15-209862-7
本体 ¥2,000+税



お騒がせロボット営業部!(文春文庫 つ 26-1)

辻堂 ゆめ 著
文藝春秋

社運をかけ開発した人型ロボット・パティが事件を起こしたとの連絡が。お世話係の朝香とロボットオタクの怜央は真相に迫れるのか。軽快ユーモアミステリー。『別冊文藝春秋』掲載に書き下ろしを加えて文庫化。

日本経済新聞 2019/07/20

2019.7./ 299p
978-4-16-791314-4
本体 ¥660+税



無明 内田吐夢

四方田 犬彦 著
河出書房新社

内田吐夢の映画の深く暗い力はどこから来たのか。日本映画史上最大の巨匠のひとりでありながら正面から論じられてこなかった内田吐夢の軌跡と作品、その核心に、日本映画の大批判者が挑む。

日本経済新聞 2019/07/20

2019.5./ 369p
978-4-309-25630-6
本体 ¥3,900+税



新たなマイノリティの誕生～声を奪われた白人労働者たち～

ジャスティン・ゲスト、吉田 徹、西山 隆行、石神 圭子、河村 真実 著
弘文堂

白人労働者階級は何に憤っているのか。ポピュリズム政治を駆動させるその力はどこから来るのか。英イーストロンドンと米オハイオ州ヤングスタウンでのインタビュー等から<トランプとブレグジットを生んだ人々>の正体に迫る。

日本経済新聞 2019/07/20

2019.5./ 15p,387p
978-4-335-46038-8
本体 ¥2,900+税





論語と算盤～現代語訳～(ちくま新書)

渋沢 栄一、守屋 淳 著
筑摩書房

日本語実業界の父が、生涯を通じて貫いた経営哲学とはなにか。「利潤と道徳を調和させる」という、経済人がなすべき道を示した「論語と算術」の現代語抄訳を収める。十の格言、渋沢栄一小伝も掲載。

2010.2./ 249p
978-4-480-06535-3
本体 ¥820+税



日本経済新聞 2019/07/20



いきいきに学び直す日本史<教養編> 古代・中世・近世

安藤 達朗 著
東洋経済新報社

1973 年刊「大学への日本史」を、最新情報をもとに全面改訂して復刊。教養編では、原始・古代?近世(前期)を取り上げ、「世界史」を意識した記述で解説する。主要な史料を設問形式で掲載した「史料演習」付き。

2016.3./ 455p
978-4-492-06199-2
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2019/07/20



いきいきに学び直す日本史<実用編> 近代・現代

安藤 達朗 著
東洋経済新報社

1973 年刊「大学への日本史」を、最新情報をもとに全面改訂して復刊。実用編では、近世(後期)?近代・現代を取り上げ、「世界史」を意識した記述で解説する。主要な史料を設問形式で掲載した「史料演習」付き。

2016.3./ 394p
978-4-492-06200-5
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2019/07/20



資本市場とプリンシプル

佐藤 隆文 著
日本経済新聞出版社

公益の視点から望ましい姿や方向感を示す「プリンシプル」が、資本市場の品格と活力を高めることを、金融行政の第一人者が解説。エクイティ・ファイナンス、不祥事の対応と予防のプリンシプルを事例とともに説明する。

2019.5./ 266p
978-4-532-35820-4
本体 ¥2,500+税



日本経済新聞 2019/07/20



日米同盟のコスト～自主防衛と自律の追求～

武田 康裕 著
亜紀書房

米軍の抑止力の一部を「自己負担」とすると、いくらかかるのか? 日米同盟を維持しつつ、日本が自主防衛と自律を追求した際のコストを算定。安全、自主、自律からなる連立方程式を解く。

2019.5./ 252p
978-4-7505-1539-7
本体 ¥2,500+税



日本経済新聞 2019/07/20



1億 3000万人のためのeスポーツ入門

但木 一真 著
NTT出版

急速に盛り上がる e スポーツ業界。シーンの全体像からビジネスのいろはまで、知っておきたい知識が満載。ゲームコンサルタントをはじめ e スポーツをけん引するリーダーたちが、それぞれの立場から業界の現状と今後を語る。

2019.5./ 204p
978-4-7571-6081-1
本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/07/20



ストーリー・オブ・マイ・キャリア～「赤毛のアン」が生まれるまで～

L.M.モンゴメリ、水谷 利美 著
柏書房

プリンス・エドワード島と家族の記憶、創作への目覚め、新聞記者の仕事、そして「赤毛のアン」の誕生。約 100 年前にひとりのはたらく女性として歩んだ道程を綴ったモンゴメリの自伝的エッセイ。モンゴメリ概説と訳注付き。

2019:7./ 180p
978-4-7601-5104-2
本体 ¥1,700+税



日本経済新聞 2019/07/20



ブレードランナー証言録(インターナショナル新書 039)

ハンプトン・ファンチャー、マイケル・グリーン、渡辺 信一郎、ポール・M.サモン、大野和基 編

ハンプトン・ファンチャー、マイケル・グリーン、渡辺 信一郎、ポール・M.サモン 著
集英社インターナショナル

映画「ブレードランナー」シリーズのクリエイター4 人に独占インタビューを敢行。「デックカードはレプリカントか?」「フィリップ・K・ディックの原作の影響」など疑問、定説、伝説を徹底的に追究する。

2019:6./ 173p
978-4-7976-8039-3
本体 ¥780+税



日本経済新聞 2019/07/20



がん外科医の本音～患者の前で言わない本当のこと～(SB新書 480)

中山 祐次郎 著
SBクリエイティブ

がんには闘い方がある! がん外科医が「医学研究の結果+現場の経験」をわかりやすく説明し、病院選びやがん治療医との付き合い方、がんとはそもそもどういふもので、なぜ抗がん剤の副作用は起こるのかなどを本音で記す。

2019:6./ 252p
978-4-8156-0247-5
本体 ¥850+税



日本経済新聞 2019/07/20



ジャパン・ストーリー～昭和・平成の日本政治見聞録～

ジェラルド・L.カーティス、村井 章子 著
日経BP社

東京オリンピックが開かれた 1964 年に来日して以来、日本政治の研究者として優れた業績を上げてきた著者による、個性豊かな政治家たちのマル秘話を交えた昭和・平成政治史。中曽根康弘インタビューも収録。

2019:5./ 293p
978-4-8222-8970-6
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2019/07/20



待ち遠しい

柴崎 友香 著
毎日新聞出版

住み心地のいい離れの一軒家で一人暮らしを続ける 39 歳の春子。母屋に越してきた 63 歳のゆかりと、裏手の家に暮らす新婚 25 歳の沙希と出会い、「ご近所付き合い」が始まるが…。『毎日新聞』日曜くらぶ連載を単行本化。

2019:6./ 336p
978-4-620-10841-4
本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/07/20、読売新聞 2019/07/28



日本のマクロ経済政策～未熟な民主政治の帰結～(岩波新書 新赤版 1780)

熊倉 正修 著
岩波書店

蔓延する情報の隠蔽・歪曲、政治家や官僚の無責任な機会主義を脱し、日本はまともな国に生まれ変わることができるのか。いまや末期症状を呈している現在の日本のマクロ経済政策を俯瞰し、その問題点を解明する。

2019/6./ 3p,242p
978-4-00-431780-7
本体 ¥840+税



日本経済新聞 2019/07/27



解説ウェーバー～プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神～(講談社選書メチエ 706)

橋本 努 著
講談社

「天職」概念や二重予定説といったプロテスタントの教説から、いかにして資本主義を駆動するものが生まれたのか。超難解書の全体像を徹底解説。「近代という問題」の核心をえぐる思考のエッセンスを汲み、現代的意義を探る。

2019/7./ 317p
978-4-06-516592-8
本体 ¥1,900+税



日本経済新聞 2019/07/27



生のみ生のまま<上>

綿矢 りさ 著
集英社

恋人と出かけたリゾートで、25歳の逢衣は彼の幼なじみと、その彼女・彩夏に出会う。逢衣と彩夏は東京へ帰った後も親しく付き合うようになるが、ある日とつぜん、彩夏に唇を奪われ…。『すばる』連載を加筆修正して単行本化。

2019/6./ 218p
978-4-08-771188-2
本体 ¥1,300+税



日本経済新聞 2019/07/27



生のみ生のまま<下>

綿矢 りさ 著
集英社

互いに男の恋人がいるのに惹かれあう逢衣と彩夏は、一緒に暮らし始めた。芸能活動をしていた彩夏の人気に火がつき、仕事も恋も順調に回り始めた矢先、思わぬ試練に襲われ…。『すばる』連載を加筆修正して単行本化。

2019/6./ 220p
978-4-08-771189-9
本体 ¥1,300+税



日本経済新聞 2019/07/27



藝術のパトロン～松方幸次郎、原三溪、大原二代、福島コレクション～(中公文庫や69-1)

矢代 幸雄 著
中央公論新社

コレクションにその名を残した松方幸次郎、原三溪、大原孫三郎・総一郎、福島繁太郎との交遊を綴った回想録。松方とのパリでの買い付けや、画家モネーとの交渉、児島虎次郎のエピソードなどをユーモア豊かに語る。

2019/6./ 264p
978-4-12-206750-9
本体 ¥900+税



日本経済新聞 2019/07/27



5分間SF(ハヤカワ文庫 JA 1386)

草上 仁 著
早川書房

思わずあっと驚く結末が、じんわりと心に余韻を残す、すこしふしぎなお話が盛りだくさん。「大恐竜」「扉」「マダム・フィグスの宇宙お料理教室」「結婚裁判所」ほか、1話5分で読めて楽しめるSFショートショートを収録。

2019/7./ 236p
978-4-15-031386-9
本体 ¥640+税



日本経済新聞 2019/07/27



三体

劉 慈欣、大森 望、光吉 さくら、ワン チャイ、立原 透耶 著
早川書房

物理学者の父を文化大革命で亡くし、人類に絶望した中国人エリート科学者・葉文潔。ある日、彼女は謎めいた軍事基地にスカウトされる。そこでは、人類の運命を左右するかもしれないプロジェクトが極秘裏に進行していて…。

2019/7./ 447p
978-4-15-209870-2
本体 ¥1,900+税



日本経済新聞 2019/07/27



ホモ・デウス～テクノロジーとサピエンスの未来～<上>

ユヴァル・ノア・ハラリ、柴田 裕之 著
河出書房新社

人類は不死と幸福、神性を目指し、神のヒト「ホモ・デウス」へと自らをアップグレードする。そのとき、富む者と貧しい者との格差は、創造を絶するものとなる。人類の未来を、かつてないスケールで描く。

2018/9./ 265p
978-4-309-22736-8
本体 ¥1,900+税



日本経済新聞 2019/07/27



ホモ・デウス～テクノロジーとサピエンスの未来～<下>

ユヴァル・ノア・ハラリ、柴田 裕之 著
河出書房新社

生物はただのアルゴリズムであり、コンピューターが人類のすべてを把握する。生物工学と情報工学の発達によって、資本主義や民主主義、自由主義は崩壊し…。人類の未来を、かつてないスケールで描く。

2018/9./ 284p
978-4-309-22737-5
本体 ¥1,900+税



日本経済新聞 2019/07/27



愛する意味(光文社新書 1010)

上田 紀行 著
光文社

日本人が幸せになれないのは、「愛すること」よりも「愛されること」を優先しているから。長年、生きる意味を見失った現代社会への提言を続けている文化人類学者による、「愛」に関する熱烈な考察。

2019/6./ 212p
978-4-334-04416-9
本体 ¥780+税



日本経済新聞 2019/07/27



暴力と不平等の人類史～戦争・革命・崩壊・疫病～

ウォルター・シャイデル、鬼澤 忍、塩原 通緒 著
東洋経済新報社

平等は破壊の後にやってくる。「第二次大戦後の日本」250万人戦死→トップ1%の富が9割下落、「西ローマ帝国の崩壊」支配層の消滅→搾取の終焉・生活向上…。石器時代から現代まで、世界各国の不平等の歴史を描き出す。

2019/6./
10p,582p,141p
978-4-492-31516-3
本体 ¥5,400+税



日本経済新聞 2019/07/27



エア・パワー 空と宇宙の戦略原論

石津 朋之、山下 愛仁 著

日本経済新聞出版社

垂直空間で運用されるすべての活動を対象とするエア・パワー。宇宙での作戦にも関係し、サイバー空間の攻撃にも通じる、21世紀の安全保障を考える上で欠かせないエア・パワーを、歴史、理論、現状を融合させて解説する。

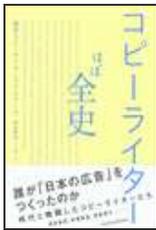
2019:5./ 12p,421p

978-4-532-17660-0

本体 ¥3,600+税



日本経済新聞 2019/07/27



コピーライターほぼ全史

東京コピーライターズクラブ 編

鈴木 隆祐 著

日本経済新聞出版社

広告文案家から始まった黎明期、経済成長とともに円熟し、独特の言語表現となった時代...。「コピー年鑑」を中心に、半世紀に亘る日本の広告を年代ごとにピックアップ。コピーライターたちの活躍とその歴史を振り返る。

2019:5./ 494p

978-4-532-32243-4

本体 ¥3,500+税



日本経済新聞 2019/07/27



奴隷労働～ベトナム人技能実習生の実態～

巢内 尚子 著

花伝社

仲介ビジネスの横行、渡航前費用の多額の借金、低賃金、長時間労働、暴力、劣悪な住居環境、日本の受け入れ企業での人権侵害...。詳細な聞き取りで、急増するベトナム人技能実習生の驚くべき現状を明らかにする。

2019:3./ 271p

978-4-7634-0880-8

本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2019/07/27



父親の科学～見直される男親の子育て～

ポール・レイバーン、東 竜ノ介 著

白揚社

父親は子育てに本当に必要なのか？ これまで見過ごされがちだった男親の育児の価値を、5人の子供の父親である著者が科学の視点で徹底検証。<意外にすごい>お父さんの役割を明らかにする。

2019:6./ 283p

978-4-8269-0208-3

本体 ¥2,400+税



日本経済新聞 2019/07/27



求むマエストロ。瓦礫の国の少女より～イラク・ナショナル・ユース・オーケストラの冒険～

ポール・マカランドン、藤井 留美 著

アルテスパブリッシング

イラクのユース・オーケストラ結成プロジェクトに携わった、スコットランド出身の若手指揮者が、イラクの若き演奏家の卵たちと、彼らを取り巻く混沌とした状況、そして多くの支援者との葛藤を描く。

2019:5./ 422p 図版
16p

978-4-86559-195-8

本体 ¥2,500+税



日本経済新聞 2019/07/27



バッシング論(新潮新書 816)

先崎 彰容 著
新潮社

日本人はなぜかくも余裕を失ったのか。くり返されるバッシング、謝罪と反省のなかに浮かびあがる社会の構造変化をとらえ、異様なまでに「マジメ」な人たちであふれた「美しい国」の病根をえぐりだす。

2019/6./ 203p
978-4-10-610816-7
本体 ¥740+税



日本経済新聞 2019/07/27、読売新聞 2019/07/28



象徴のうた

永田 和宏 著
文藝春秋

おうたにこめられた平和への祈り-。全身全霊をかけて「象徴」としての公務を続けてこられた両陛下が、平成という時代のなかで詠まれた数々のうたを、時代との関わりのなかで論じる。共同通信配信の新聞連載を単行本化。

2019/6./ 287p
978-4-16-391043-7
本体 ¥1,800+税



毎日新聞 2019/07/01



いるいないみらい

窪 美澄 著
KADOKAWA

妊活を始めて 4 カ月。時間がないとあせる妻に対し、夫の睦生は…。子どもがいてもいなくても、毎日を懸命に生きるすべての人へそっと手を差し伸べてくれる全 5 編を収録。『小説野性時代』掲載を単行本化。

2019/6./ 221p
978-4-04-105492-5
本体 ¥1,400+税



毎日新聞 2019/07/06



国家機密と良心～私はなぜペンタゴン情報を暴露したか～(岩波ブックレット No.996)

ダニエル・エルズバーグ、梓澤 登、若林 希和 著
岩波書店

伝説の内部告発者、ダニエル・エルズバーグ。彼は政府高官になるまでどんな人生を辿り、なぜベトナム戦争の?を暴露する米国防総省秘密報告書を告発したのか。自らの人生や内心の葛藤を語ったオリジナル・インタビューを収録。

2019/4./ 118p
978-4-00-270996-3
本体 ¥740+税



毎日新聞 2019/07/07



移民クライシス～偽装留学生、奴隷労働の最前線～(角川新書 K-259)

出井 康博 著
KADOKAWA

入管書類のでっち上げを黙認する政府、借金漬けで追い込まれる留学生…。改正入管法の施行の陰で、食い物にされる外国人たち。日本人の便利で安価な暮らしを最底辺で支える奴隷労働の実態に迫る。

2019/4./ 303p
978-4-04-082291-4
本体 ¥920+税



毎日新聞 2019/07/07



団地と移民～課題最先端「空間」の闘い～

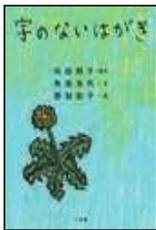
安田 浩一 著
KADOKAWA

排外主義的なナショナリズムに世代間の軋轢、都市のスラム化、外国人居住者との共存共栄…。かつて「夢と希望の地」だった団地は、課題最先端「空間」となっていた！日本各地に加えてテロ後のバリ郊外も取材した、団地ルポ。

2019/3./ 253p
978-4-04-101388-5
本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2019/07/07



字のないはがき

向田 邦子、角田 光代、西 加奈子 著
小学館

戦争中、疎開するちいさな妹に、お父さんは「元気な日は、はがきにまるを書いてポストにいれなさい」と言って、たくさんのはがきを渡した…。妹と父のエピソードを綴った向田邦子の名エッセイを、角田光代と西加奈子が絵本化。

毎日新聞 2019/07/07

2019:5./ 1冊(ページ付なし)

978-4-09-726848-2

本体 ¥1,500+税



緋の河

桜木 紫乃 著
新潮社

男として生まれた。でも、きれいな女の人になりたいな-。己の信じる道を進んだカールセル麻紀の波瀾万丈の人生を、事実を元に、想像力を最大限に加えて描く。『北海道新聞』『中日新聞』ほか連載に加筆修正し単行本化。

毎日新聞 2019/07/07

2019:6./ 534p

978-4-10-327725-5

本体 ¥2,000+税



ベストセラー伝説(新潮新書 819)

本橋 信宏 著
新潮社

60年代から70年代にかけて、青少年を熱中させた雑誌や書籍には、前代未聞の企画力や一発逆転の販売アイデアが溢れていた。その舞台裏を当時の関係者たちから丹念に聞き出す。『新潮45』掲載を加筆し書籍化。

毎日新聞 2019/07/07

2019:6./ 222p

978-4-10-610819-8

本体 ¥760+税



辻邦生 永遠のアルカディアへ

学習院大学史料館 編
中央公論新社

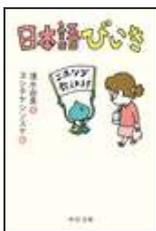
旧制高等学校時代の習作をはじめ、松浦寿輝、加賀乙彦、宇野千代らのエッセイ、金沢百枝らの講演、塩野七生との対談などを収録する。2015?2018年開催の辻邦生関連展示の記念冊子に加筆し書籍化。

毎日新聞 2019/07/07

2019:6./ 157p

978-4-12-005201-9

本体 ¥1,800+税



日本語びいき(中公文庫 し 52-1)

清水 由美、ヨシタケ シンスケ 著
中央公論新社

ごもつともなう抜き、奥ゆかしい自動詞、群れからはぐれた単語たち、発音しない発音…。日本語教師である著者が、愉快的文例を駆使して日本語を説く。オリジナルのコラム&新章を増補して文庫化。

毎日新聞 2019/07/07

2018:8./ 221p

978-4-12-206624-3

本体 ¥700+税



水運史から世界の水へ～Speeches on Water Issues～

徳仁親王 著
NHK出版

皇太子殿下による、水上交通史や水災害を含む水問題についてのご講演の記録。1987年のテムズ川の水上交渉の歴史に関する講演から、2018年の第8回世界水フォーラムにおける基調講演まで、全9編を収録する。

毎日新聞 2019/07/07

2019:4./ 250p

978-4-14-081772-8

本体 ¥1,600+税





ルポ 不法移民とトランプの闘い〜1100万人が潜む見えないアメリカ〜(光文社新書 971)

田原 徳容 著
光文社

トランプ大統領の就任後、「移民の国」アメリカは様々な形で不法移民への圧力を強めている。はたして、アメリカはこれからも「夢の国」でいられるのか？ トランプ政権以後の移民をめぐる現場を追いかけたルポ。

2018/10./ 383p
978-4-334-04377-3
本体 ¥900+税



毎日新聞 2019/07/07



イタリア・ルネサンスの文化<上>(ちくま学芸文庫 フ 13-11)

ヤーコプ・ブルクハルト、新井 靖一 著
筑摩書房

歴史家ブルクハルトが、ルネサンスを単なる「古代の再生」として捉えず、あらゆる分野における近代化への移行運動として大胆に解釈しなおした書。上は、「精緻な構築体としての国家」「個人の発展」「古代の復活」を収録。

2019/5./ 485p
978-4-480-09914-3
本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2019/07/07



イタリア・ルネサンスの文化<下>(ちくま学芸文庫 フ 13-12)

ヤーコプ・ブルクハルト、新井 靖一 著
筑摩書房

歴史家ブルクハルトが、ルネサンスを単なる「古代の再生」として捉えず、あらゆる分野における近代化への移行運動として大胆に解釈しなおした書。下は、「世界と人間の発見」「社交と祝祭」「習俗と宗教」を収録。

2019/5./ 514p
978-4-480-09915-0
本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2019/07/07



ロクス・アモエヌス

沢渡 朔、高橋 睦郎、半澤 潤、ジェフリー・アングルス 著
平凡社

選りすぐりのアンティークと半澤潤による手仕事の賜物たる、築 100 年弱の洋館。庭、門、台所、階段、屋根裏部屋…。修復を続け、詩人の終の住処になるまでの歳月を、美しい写真とテキストで描く。折り込みページあり。

2019/3./ 219p
978-4-582-62066-5
本体 ¥15,000+税



毎日新聞 2019/07/07



不知火のほとり〜石牟礼道子終焉記〜

米本 浩二 著
毎日新聞出版

2018 年 2 月に没した作家・石牟礼道子。その最晩年に「密着取材」と「渾身介護」で寄り添ったジャーナリストが、知られざる「最期の日々」を描く。「苦海浄土」の本質に迫る書。

2019/5./ 233p
978-4-620-32586-6
本体 ¥1,800+税



毎日新聞 2019/07/07



外は夏(となりの国のものがたり 03)

キム エラン、古川 綾子 著
亜紀書房

いつのまにか失われた恋人への思い、愛犬との別れ、消えゆく千の言語を収めた奇妙な博物館…。韓国文学の旗手が「喪失」をテーマに紡いだ短編集。「立冬」をはじめ全 7 編を収録する。

2019/6./ 284p
978-4-7505-1593-9
本体 ¥1,700+税



毎日新聞 2019/07/07



すごい論語

安田 登 著
ミシマ社

各分野で活躍する「すごい」人に「論語」を投げかけると、2500 年前を凌ぐ「すごい論語」が現れた！ 能楽師の著者が、いとうせいこう、釈徹宗、ドミニク・チェンなど様々な分野の第一人者と「論語」について語り合う。

毎日新聞 2019/07/07

2019:6./ 244p
978-4-909394-21-7
本体 ¥1,800+税



明智光秀・秀満〜ときハ今あめが下しる五月哉〜(ミネルヴァ日本評伝選)

小和田 哲男 著
ミネルヴァ書房

織田家重臣として活躍しながらも、主君信長への謀反を起こした明智光秀とその女婿秀満。謎に包まれたふたりの前半生、そして行動と人となり、さらには本能寺の変に至った動機と背景を解明する。

毎日新聞 2019/07/07、朝日新聞 2019/07/20

2019:6./
14p,263p,11p
978-4-623-08656-6
本体 ¥2,500+税



書物の愉しみ〜井波律子書評集〜

井波 律子 著
岩波書店

絵本から童話、小説、そして広大な書物の海へ。本を読むことが、どれほど楽しいことか。いきいきとした好奇心と素直な驚きに溢れた文章で読者を書棚の前へといざなう、井波律子の 30 年間の書評を収録する。

毎日新聞 2019/07/14

2019:6./
13p,521p,18p
978-4-00-061345-3
本体 ¥3,200+税



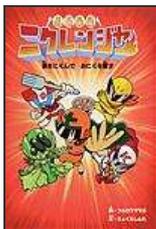
『平成の天皇』論(講談社現代新書 2519)

伊藤 智永 著
講談社

202 年ぶりの天皇生前退位は、現代日本にとってどういう出来事か。主にその政治的・歴史的な意味を追求することで、平成の天皇は何を成し遂げ、平成とはどんな時代だったのかを捉えるとともに、これからの天皇制を考える。

毎日新聞 2019/07/14

2019:4./ 229p
978-4-06-515750-3
本体 ¥840+税



外食戦隊ニクレンジャー〜悪をにくんでおにくを愛す〜

集英社

ニクレンジャーは、くいしんぼう怪人・ハラペゴンから町のみんなを守るのか!? 吉野家、松屋、ガスト、ケンタッキー、モスバーガーによる人気キャラクター「外食戦隊ニクレンジャー」の絵本。めいろ等も収録。

毎日新聞 2019/07/14

2019:7./ 79p
978-4-08-780869-8
本体 ¥900+税



レイテ戦記<1>(中公文庫 お 2-13)

大岡 昇平 著
中央公論新社

太平洋戦争の天王山・レイテ島での死闘を、膨大な資料を駆使して再現した戦記文学の金字塔。1 は、昭和 19 年 4 月の第 16 師団レイテ島進出から、11 月の米軍カリガラ進出までを収録。講演「レイテ戦記」の意図も掲載。

毎日新聞 2019/07/14

2018:4./ 434p
978-4-12-206576-5
本体 ¥1,200+税





戦後日本ジャーナリズムの思想

根津 朝彦 著
東京大学出版会

占領期を経た後、言論の自由を享受した日本社会で、ジャーナリストたちによって模索された言論・報道の歴史を組み込みながら、戦後日本ジャーナリズムの思想的財産を解き明かす。

2019:4./ 7p,392p,8p

978-4-13-026249-1

本体 ¥5,200+税



毎日新聞 2019/07/14



北朝鮮外交秘録～三階書記室の暗号～

太 永浩、鐸木 昌之、李 柳真、黒河 星子 著
文藝春秋

核開発の舞台裏、イスラエルとの極秘交渉、日朝平壤宣言での敗北…。30年間にわたり平壤心臓部を生き抜いた歴代最高位の亡命外交官が、人生を賭けて金政権中枢の真実を明かす。

2019:6./ 492p

978-4-16-391038-3

本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2019/07/14



上野千鶴子のサバイバル語録(文春文庫 う28-4)

上野 千鶴子 著
文藝春秋

「逆風は快樂である」「立ちはだかる壁は、迂回せよ」「母娘対決のタイミングを逃すな」「年下の友人をつくる秘訣」…。仕事、結婚、家族、老後を乗り切るための語録集。過去の著作群から抜粋した140の金言を収録。

2019:4./ 175p

978-4-16-791268-0

本体 ¥560+税



毎日新聞 2019/07/14



夏の坂道

村木 嵐 著
潮出版社

あの日、「総長演説」が敗戦国日本を蘇らせた。学問と信仰で戦争に対峙した戦後最初の東大総長・南原繁の生涯を描いた長編小説。『潮』連載を単行本化。

2019:3./ 406p

978-4-267-02166-4

本体 ¥1,900+税



毎日新聞 2019/07/14



暗い時代の人々

森 まゆみ 著
亜紀書房

斎藤隆夫、竹久夢二、山川菊栄…。最も精神の抑圧された、1930～45年の「暗い時代」に、「精神の自由」を掲げて戦った9人の生の軌跡を、評伝の名手が描き出す。ウェブマガジン『あき地』連載に加筆し書籍化。

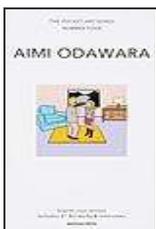
2017:4./ 294p

978-4-7505-1499-4

本体 ¥1,700+税



毎日新聞 2019/07/14



AIMI ODAWARA (THE POCKET ART SERIES NUMBER4)

小田原 愛美 著
オークラ出版

人とアートとの出会いをつくるペーパーバック。水彩からデジタル、さらには立体まで、枠にとらわれない多彩な技法でアイロニカルな世界観を表現する小田原愛美の作品とインタビューを収録する。

2019:7./ 1冊(ページ

付なし)

978-4-7755-2873-0

本体 ¥1,100+税



毎日新聞 2019/07/14



呪いの言葉の解きかた

上西 充子 著
晶文社

「文句を言うな」「君だって一員なんだから」「嫌ならやめちゃえば?」「母親なんだからしっかり」...。政権の欺瞞から日常のハラスメントまで、隠された「呪いの言葉」を取り上げ、呪縛の解きかたを紹介する。

2019.5./ 281p
978-4-7949-7088-6
本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2019/07/14



チョムスキーと言語脳科学(インターナショナル新書 037)

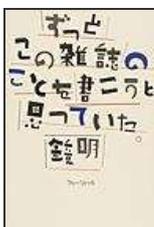
酒井 邦嘉 著
集英社インターナショナル

言語機能は生得的だとする「生成文法理論」は正しいのか。チョムスキー著「統辞構造論」を詳説し、生成文法理論の核心となる<文法中枢>が脳内に存在することを、言語脳科学の実証実験で明らかにする。

2019.4./ 249p
978-4-7976-8037-9
本体 ¥860+税



毎日新聞 2019/07/14



ずっとこの雑誌のことを書こうと思っていた。

鏡 明 著
フリースタイル

この雑誌がなかったら、いまのぼくはなかった。著者が少年のときに会った雑誌『マンハント』を通して、ポピュラー・カルチャーとは何かを考える。『フリースタイル』連載を改題して単行本化。

2019.7./ 378p 図版
16p
978-4-939138-96-6
本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2019/07/14



限界病院

久間 十義 著
新潮社

過疎地域にあるバトラー病院は深刻な財政危機を抱えていた。新任院長は大胆な改革案を打ち出そうとするが...。危機に瀕する地方病院を舞台にさまざまな思惑が蠢く医療長編。インターネットサイト『m3.com』掲載を書籍化。

2019.5./ 386p
978-4-10-391804-2
本体 ¥2,100+税



毎日新聞 2019/07/14、産経新聞 2019/07/28



ボランティアとファシズム~自発性と社会貢献の近現代史~

池田 浩士 著
人文書院

日本のボランティアは関東大震災後の救護活動及びセツルメントの開設に端を発する。ヒトラー・ドイツに学んだ日本国家が彼らの社会貢献を制度化し、「勤労奉仕」に組み換える形で戦時体制に取り込んでゆく過程を明らかにする。

2019.5./ 395p
978-4-409-52077-2
本体 ¥4,500+税



毎日新聞 2019/07/14、朝日新聞 2019/07/20



敗戦後論(ちくま学芸文庫 カ 38-1)

加藤 典洋 著
筑摩書房

新しい大戦の死者の弔い方、憲法の「選び直し」など、ラディカルな問題提起により大論争を巻き起こした、戦後問題の基本書を再刊。内田樹・伊東祐史による解説を付す。

2015.7./ 381p
978-4-480-09682-1
本体 ¥1,200+税



毎日新聞 2019/07/14、朝日新聞 2019/07/27



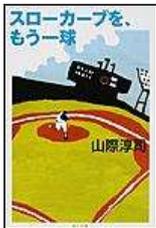
椿宿の辺りに

梨木 香歩 著
朝日新聞出版

三十肩と鬱で難儀している皮膚科学研究所の山幸彦。外祖母・早百合の夢枕に立った祖父からの伝言を託され、山幸彦は祖先の地・椿宿へと向かう…。『f 植物園の巣穴』の姉妹編。『小説トリッパー』連載に加筆修正し単行本化。

毎日新聞 2019/07/21

2019/5./ 301p
978-4-02-251610-7
本体 ¥1,500+税



スローカーブを、もう一球 改版(角川文庫 や 10-1)

山際 淳司 著
角川書店

1度だけ打ったホームラン、9回裏の封じ込め。駆け引きと疲労の中、ドラマは突然始まり、時間は濃密に急回転する。勝つ者がいれば、負ける者がいる。限界を超えようとするアスリートを活写したスポーツ・ノンフィクション。

毎日新聞 2019/07/21

2012/6./ 285p
978-4-04-100327-5
本体 ¥560+税



インパール 新装版(文春文庫 た 2-11)

高木 俊朗 著
文藝春秋

功名心に気負いたつ軍司令官・牟田口廉也中将の下、いたずらに犠牲となった人間の無念。無謀で無残な戦いだったインパール作戦を、史実に基づいた考証と静かなる気迫で綴った戦記文学の名著。

毎日新聞 2019/07/21

2018/7./ 470p
978-4-16-791113-3
本体 ¥980+税



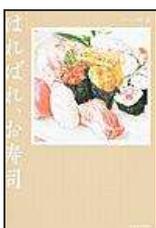
異能の男 ジャニー喜多川～悲しき楽園の果て～

小菅 宏 著
徳間書店

アイドルを輩出し続ける力や類まれな戦略の源泉は何か？ 滝沢秀明の引退、嵐の活動休止など、激震が続く理由とは？ ジャニー喜多川の真の姿を、この半世紀に出てきた本人の言葉や、証言、資料を分析し、明らかにする。

毎日新聞 2019/07/21

2019/3./ 302p
978-4-19-864810-7
本体 ¥1,800+税



はればれ、お寿司(おいしい文藝)

嵐山 光三郎 著
河出書房新社

特別な日に奮発する鮨、進化が止まらない回転寿司…。世界中から愛されるごちそう、「お寿司」にまつわる、北大路魯山人、獅子文六、杉浦日向子、柚木麻子、吉村昭らによるエッセイと、村上春樹・安西水丸の対談を収録する。

毎日新聞 2019/07/21

2019/3./ 203p
978-4-309-02785-2
本体 ¥1,600+税



ディスタント

ミヤギ フトシ 著
河出書房新社

僕をあなたの部屋に連れて行ってほしい。そして、あなたと僕、ふたりの写真を撮らせてほしい。まるで、僕たちふたりが恋人同士であるかのような。気鋭の現代美術作家が描く青春小説。『文藝』掲載を単行本化。

毎日新聞 2019/07/21

2019/4./ 282p
978-4-309-02796-8
本体 ¥1,800+税





在原業平(日本の旅人)

池田 彌三郎 著
淡交社

謎に包まれている在原業平の東下り。幻影の人としての業平が、旅立つに至った動機を、藤原氏との確執の中にさぐり、歴史と民俗と文学との間を自在に飛翔してゆきながら、日本の国土を通過して行った姿を跡付ける。

毎日新聞 2019/07/21

2019:2./ 195p
978-4-473-04292-7
本体 ¥2,000+税



思いつきで世界は進む〜「遠い地平、低い視点」で考えた 50 のこと〜(ちくま新書 1384)

橋本 治 著
筑摩書房

世界も日本も、バカが偉くなってしまい、それに疑問をもつことにも麻痺している今日この頃。そんな世の中に起きた日常の変化から世界的な事象までを見渡した時評集。PR 誌『ちくま』連載を書籍化。

毎日新聞 2019/07/21

2019:2./ 219p
978-4-480-07196-5
本体 ¥780+税



ハピネス・カーブ〜人生は 50 代で必ず好転する〜

ジョナサン・ラウシュ、多賀谷 正子 著
CCCメディアハウス

社会は、中年期特有の谷底にいる人たちを揶揄するのではなく、手をさしのべなくてはならない。「人生、このままでいいのか?」という中年期の焦燥感に、ブルッキングス研究所のシニアフェローが科学で迫る。

毎日新聞 2019/07/21

2019:6./ 389p
978-4-484-19105-8
本体 ¥1,800+税



俳句必携 1000 句を楽しむ

宮坂 静生 著
平凡社

『日本農業新聞』『文藝春秋増刊くりま』などに掲載した俳句鑑賞コラムを集成。江戸から平成まで、日々詠まれてきた俳句 1068 句を取りあげ、作者、出典、鑑賞句の季語を併載する。俳句を楽しむための書籍案内なども収録。

毎日新聞 2019/07/21

2019:5./ 8p,389p
978-4-582-30523-4
本体 ¥2,800+税



インパール作戦 悲劇の構図〜日本陸軍史上最も無謀な戦い〜

久山 忍 著
潮書房光人新社

軍司令官、参謀たちの無責任・無能さと、第一線将兵の驚嘆すべき働きが鮮やかな対比を見せるインド・ビルマの戦い。なぜ無謀な作戦が採用されたのか。補給なき戦場で 3 万人の日本兵が命を落とした無残な敗北の実相を描く。

毎日新聞 2019/07/21

2018:7./ 319p
978-4-7698-1661-4
本体 ¥2,200+税



ヘルパーが支えた老老介護 24 年〜ピンチをチャンスに、笑顔でつなぐ認知症ケア〜

谷口 政春、京都福祉サービス協会 著
かもがわ出版

余命 4 年半と言われた認知症高齢者が、ヘルパーに支えられた老老介護で、発症後 24 年間の命をまっとうした記録。各ヘルパーの振り返りの語りを通して、在宅での認知症ケアにおける様々なエピソードを紹介する。

毎日新聞 2019/07/21

2019:8./ 167p
978-4-7803-1025-2
本体 ¥1,600+税





大前研一 稼ぐ力をつける「リカレント教育」～誰にも頼れない時代に就職してから学び直すべき4つの力～

大前 研一 著
プレジデント社

世界で闘える人材になるには、日本が置かれた危機的な状況を説明し、最先端のリカレント教育を推し進める事例を紹介しながら、日本がこれらをどのように取り入れて深化させていくべきかを考える。海外の事例も紹介する。

2019/6/ 141p
978-4-8334-2322-9
本体 ¥1,400+税

毎日新聞 2019/07/21



いやな感じ

高見 順 著
共和国/editorial republica

関東大震災後、虐殺された大杉栄の復讐に失敗したアナーキスト・加柴四郎は、ファシストや軍と結託し、韓国や上海での要人暗殺に加担するが…。高見順、畢生の長篇小説「いやな感じ」の全編とそのスピンオフ作品 3 編を収録。

2019/6./ 421p
978-4-907986-57-5
本体 ¥2,700+税

毎日新聞 2019/07/21



日本占領史～写真でわかる事典～

平塚 柁緒 著
PHPエディターズ・グループ

象徴天皇、日本国憲法、東京裁判、財閥解体…。アメリカの占領政策は、日本をどのような国に変えたか? 1945 年?1952 年の占領期の日本を、GHQ からネガごと譲り受けたりなどで収集した、初出を含む貴重写真で辿る。

2019/2./ 477p,6p
978-4-909417-15-2
本体 ¥5,000+税

毎日新聞 2019/07/21



移民棄民遺民～国と国の境界線に立つ人々～(角川文庫 や 58-2)

安田 峰俊 著
KADOKAWA

国家という枠組みを取り払った場所で生きる人たちが、本当に大切にしているものは何か。様々な形で日本や日本人との接点を持ち、国民国家体制の「エラー部分」に弾き出された「境界の民」を追う。

2019/4./ 317p
978-4-04-107068-0
本体 ¥840+税

毎日新聞 2019/07/28



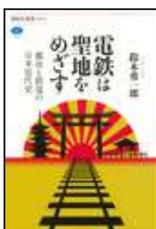
ふたつの日本～「移民国家」の建前と現実～(講談社現代新書 2516)

望月 優大 著
講談社

日本はすでに「移民国家」だ。止まらない人口減少の背後で、日本に暮らす外国人は増加の一途をたどっている。日本と移民との関係性を論じ、大きく変わる「国のかたち」の全体像をつかむ。50 点以上の図表も収録。

2019/3./ 222p
978-4-06-515110-5
本体 ¥840+税

毎日新聞 2019/07/28



電鉄は聖地をめざす～都市と鉄道の日本近代史～(講談社選書メチエ 701)

鈴木 勇一郎 著
講談社

近代の荒波を生き抜く希望を鉄道に見いだした社寺と、そこに成功栄達の機を嗅ぎつける怪しくも逞しき人々。彼らの無軌道な行動と情熱に光を当て、都市と鉄道という近代化の物語の陰に隠された都市形成の歴史を明らかにする。

2019/5./ 233p
978-4-06-515712-1
本体 ¥1,650+税

毎日新聞 2019/07/28



ナイロビの蜂<上>(集英社文庫)

ジョン・ル・カレ 著
集英社
毎日新聞 2019/07/28

2003:12./ 390p
978-4-08-760450-4
本体 ¥905+税



ナイロビの蜂<下>(集英社文庫)

ジョン・ル・カレ 著
集英社
毎日新聞 2019/07/28

2003:12./ 366p
978-4-08-760451-1
本体 ¥857+税



安楽死を遂げた日本人

宮下 洋一 著
小学館
スイスでの安楽死を希望する難病の女性。それを実現するにはハードルが高かったが、彼女の思いは海を越え、人々を動かしていった…。安楽死を求める人々と関係者取材したルポルタージュ。「安楽死を遂げるまで」の続編。

2019:6./ 349p
978-4-09-389782-2
本体 ¥1,600+税

毎日新聞 2019/07/28



クジラアタマの王様

伊坂 幸太郎 著
NHK出版
製菓会社に寄せられた 1 本のクレーム電話。広報部員・岸はその事後対応をすればよい…はずだった。だが訪ねてきた男の存在によって、岸の日常は思いもよらない事態へと一気に加速し…。書き下ろし長篇小説。

2019:7./ 380p
978-4-14-005706-3
本体 ¥1,500+税

毎日新聞 2019/07/28



寒い国から帰ってきたスパイ(ハヤカワ文庫 NV 174)

ジョン・ル・カレ 著
早川書房
作者自身情報部員ではないかと疑われたほどのリアルな描写と、結末の見事などんでん返しとによってグレアム・グリーンに絶賛され、英国推理作家協会賞、アメリカ探偵作家クラブ賞両賞を獲得したスパイ小説の金字塔!

1978:5./ 382p
978-4-15-040174-0
本体 ¥900+税

毎日新聞 2019/07/28



「二つの文化」論争～戦後英国の科学・文学・文化政策～

ガイ・オルトラノ、増田 珠子 著
みすず書房
「文系/理系」の区分をはじめ、「二つの文化」という発想には何が潜んでいるのか。英国の事情に焦点をしばりながら、C・P・スノーの「二つの文化と科学革命」がもたらした「論争」の背景に、気鋭の研究者が迫る。

2019:6./
10p,289p,100p
978-4-622-08801-1
本体 ¥6,200+税

毎日新聞 2019/07/28



明治維新の敗者たち～小栗上野介をめぐる記憶と歴史～

マイケル・ワート、野口 良平 著
みすず書房

「勝てば官軍、負ければ賊軍」なのか？ 小栗上野介忠順を敗者の代表として選び、敗者への公正さを要求した人びとが明治政府史観にいかにか抗ってきたかを膨大な史料から跡づけ、歴史の生成を描く。

2019/6./ 264p,32p
978-4-622-08811-0
本体 ¥3,800+税



毎日新聞 2019/07/28



エコロジズム～「緑」の政治哲学入門～(「緑の政治思想」の名著シリーズ 1)

ブライアン・バクスター、松野 弘、栗栖 聡、松野 亜希子、岩本 典子 著
ミネルヴァ書房

生物多様性の保存という問題を政治哲学の主題とし、他のイデオロギーと同列で検討することを可能にした「エコロジズム」。そんな概念を多角的な視点でとらえ、本格的な検証を加えた名著の翻訳。

2019/4./ 16p,345p
978-4-623-07845-5
本体 ¥4,500+税



毎日新聞 2019/07/28



アナキストの銀行家～フェルナンド・ペソア短編集～

フェルナンド・ペソア、近藤 紀子 著
彩流社

ポルトガル文学の巨星・ペソアの、時代を透視する鋭い眼と豊かな文学性に富む短編集。政情不安が高まる当時のポルトガルの社会、強大化する金の専制とそれに対するイデオロギーの空洞化を映し出した表題作など、全7話を収録。

2019/6./ 181p
978-4-7791-2599-7
本体 ¥2,000+税



毎日新聞 2019/07/28



トイレがつくるユニバーサルなまち～自治体の「トイレ政策」を考える～

山本 耕平 著
イマジン出版

トイレを考えることを通して、まちづくりの様々な課題が見えてくる。トイレがまちづくりの中でどのような位置づけにあり、課題は何かを整理すると共に、自治体のトイレ政策のあるべき姿、アプローチ法を提案する。

2019/6./ 142p
978-4-87299-818-4
本体 ¥1,200+税



毎日新聞 2019/07/28



山田稔自選集<1>

山田 稔 著
編集工房ノア

エッセイで小説、「散文芸術」の味わい。エッセイ「ああ、そうかね」「あ・ぷろぼ」から精選した短篇に、戯曲をふくむ数篇を加えて編んだ多彩な散文集。

2019/7./ 310p
978-4-89271-308-8
本体 ¥2,300+税



毎日新聞 2019/07/28



エトセトラ～フェミマガジン～<VOL.1(2019SPRING/SUMMER)> 特集/コンビニからエロ本がなくなる日

エトセトラブックス

毎号、新しい編集長がその時いちばん伝えたいテーマを特集するフェミマガジン。これまでコンビニに「エロ本」があったこと、そしてなくなることについての、60人のリアルな声を収録する。

2019/5./ 93p
978-4-909910-00-4
本体 ¥1,000+税



毎日新聞 2019/07/28



季語を知る(角川選書 622)

片山 由美子 著

KADOKAWA

時に解釈の分かれる季語。古今の歳時記をひもとき、季語の本意と疑問点を明らかにする。実作・鑑賞に役立つ季語論。『俳句』連載にエッセイを加えて書籍化。

2019:6./ 235p

978-4-04-703678-9

本体 ¥1,600+税



* 9 7 8 4 0 4 7 0 3 6 7 8 9 *

毎日新聞 2019/07/29